

5 次元理論

第4巻 宇宙の創造原理

滝 沢 輝

5次元理論 第4巻 認識の原理 目次

はじめに

フーリエ級数と2重円構造

2意識の生成方法

2重円中心間は大らせん

2重円認識の基本 - 90° 毎の回転

地球公転軌道はらせん形

太陽と地球は2重円構造

太陽軌道は大らせん

フラクタルによる物質生成

フラクタルによる太陽光エネルギーの生成

太陽光は認識主体

銀河系はらせん形の縮退構造

多重らせんによる地磁気の発生

地球は発電装置

引力の発生原理

公転軌道は電子軌道

4重円構造とは

4重円構造はオーラ増幅構造

らせんの直線変換による認識像生成

時間・空間の連続相互作用による宇宙の創造

原子力発電は全廃すべき

5次元理論は人と環境の一体化理論

肉食（哺乳類）によるがんの発生

遺伝子コントロール

原子論からフラクタルへ

ピラミッドパワーの性質

認識の基本 - 円形の直線変換

ピラミッド形における認識処理

ピラミッド形における認識処理（2）

オーラと磁石の関係

霊位は磁界の圧力

表面意識と内面意識の相互作用

他者・環境へ与える影響は自分自身に記録される

積徳とは

霊位は磁界のエネルギー準位

磁界エネルギーは活動エネルギー

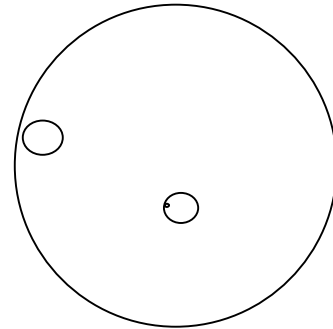
磁界エネルギーは高い霊位の世界から供給される

磁界エネルギー不足が病気の根本原因
医学の対応範囲は分子まで
想念・行為の修正による健康回復
電子のエネルギー準位
霊位が磁界のエネルギー準位であることの証明
天界は完全調和の世界
磁界エネルギーによるがん治療
天界入りする方法
内面意識の過去方向と未来方向
業念とは何か
磁界エネルギーによる病気治療
不調和な想念・行為による災害の発生
磁界エネルギーによる災害の消去
先祖供養の原理
マイナス霊位は社会発展の阻害要因
一般相対性理論は認識主体に関する理論
特殊相対性理論は認識客体に関する理論
認識主体の速度は無限

輝の会について

はじめに

私達は常に頭を2つ同時に認識しています。頭部の脳と宇宙大の脳です。全ての存在は認識処理の結果ですから、脳の内部になるのです。当然宇宙も脳に含まれることになります。これを宇宙大の脳と呼んでいるのです。



この状態は、物・粒子（小さな空間）を足し合わせて宇宙が構成されているという従来の物理学の定義では説明不可能です。

点に宇宙が内包されているという定義が物理学に必須なのです。

これはフラクタルを意味します。フラクタルが物理学に必須なのです。

フラクタルが導入されていない物理学は世界を正しく表現できていないため、明らかに間違えています。ですから修正しなければならないのです。

「5次元理論」を著述した理由の1つが上記でした。

その後研究を続けると、従来の物理学の法則が実は認識処理のロジックであることが次々判明しました。

「5次元理論 第3巻 認識の原理」では、この認識処理の原理・原則についての解説を行いました。

第4巻となる本書では、第3巻の内容を更に発展させることにより、宇宙の創造原理を理論的に解明することに成功しています。

銀河系、太陽系、地球、人は全てつながっています。一連のシステムになっているのです。

また、宇宙の構造を正しく理解することが、がんを初めとする原因不明の病の原因究明につながります。

本書ではがん対策に関する記載を行いました。原子力発電の問題点についても解説しています。

本書の発表によりエネルギー問題やがん、地震・台風を初めとする様々な問題が解決し、人類の更なる向上が実現することを願ってやみません。

2011年10月

フーリエ級数と2重円構造

5次元理論第3巻で、フーリエ級数が世界の構造原理だと説明しました。ここでは、フーリエ級数と2重円構造の関係について説明します。

(フーリエ級数については第3巻の「フーリエ級数」ご参照)

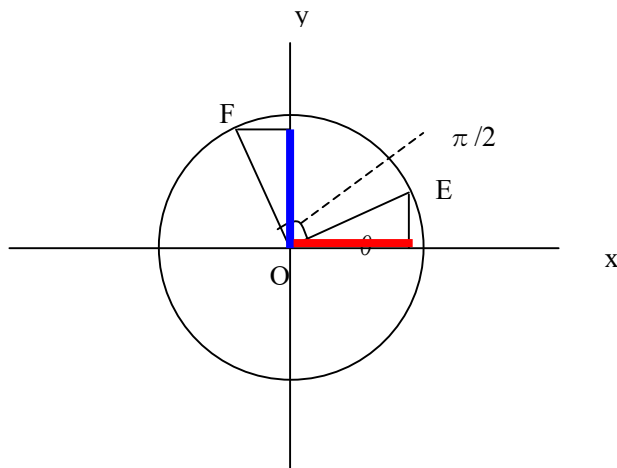
フーリエ級数では、ある周期関数 $f(\theta)$ を、

$$\sin(n\theta), \cos(n\theta) \quad (n=1, 2, 3, \dots) \quad \dots \quad \textcircled{1}$$

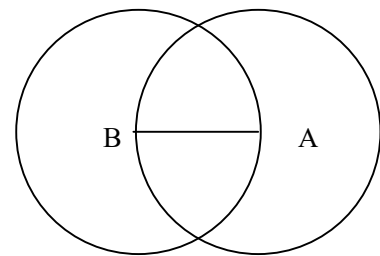
の無限級数和で表現することが可能です。

一般に、 $\sin(\theta)$ と $\cos(\theta)$ には次の関係があります。

$$\sin(\theta + \pi/2) = \cos(\theta) \quad (\theta \text{ はラジアン単位} (\pi \text{ は } 180^\circ \text{ を意味します}))$$



(図1)



(図2)

この関係を(図1)で説明します。

(図1)の前提は以下です。

- 円の半径は 1
- x軸とOEがなす角度は θ
- 角EOFは $\pi/2$ (ラジアン)

$\cos \theta$ は点Eのx座標の値になります。(赤の長さ)

$(\theta + \pi/2)$ はOEを点Oの反時計回りに $\pi/2$ (ラジアン) 回転させたOFがx軸となす角度になります。

$\sin(\theta + \pi/2)$ は点Fのy座標の値になります。(青の長さ)

青と赤の長さは θ の値にかかわらず、常に一致します。よって、

$$\sin(\theta + \pi/2) = \cos(\theta) \quad \cdot \cdot \quad \textcircled{2}$$

の関係が常に成立するのです。

②の関係を、①のフーリエ級数に適用すると、

関数 $f(\theta)$ を、 $\sin(n\theta)$ 、 $\sin(n\theta + \pi/2)$ ($n=1, 2, 3, \dots$) $\cdot \cdot \cdot$ ③
の無限級数和で表現できることとなります。

$\sin(n\theta)$ と $\sin(n\theta + \pi/2)$ は、互いに回転角度が 90° 違う状態の \sin の値ということになります。

互いに直交する2線分の \sin の値を足し合わせて、 $f(\theta)$ を生成できるのです。

(例えば、(図1)のOEとOFが、互いに直交する2線分です)

2重円構造では、中心間を移動することにより、認識方向が 90° 回転します。

(2重円構造については 第2巻の「2重円構造」ご参照)

(図2)において、点Aは右側の円を認識します。点Aから右側の円を認識する方向は円と直行します。

2重円中心間の移動(A→Bの移動)により意識は点B(右側の円上の点)に移動します。点Bからは左側の円(点Aを含む)を認識します。これは移動前と比べて認識方向が 90° 回転することを意味しています。

このように、中心間の移動前の認識と、移動後の認識(移動前の認識方向から 90° 回転した方向の認識)を足し合わせて、2重円構造による認識像が構成されているのです。

よって、2重円構造による認識像を数式で表現すると、

$$\sin(n\theta) + \sin(n\theta + \pi/2) = \cos(n\theta)$$

という、互いに直行する2方向の \sin の和になるのです。

任意の周期関数 $f(\theta)$ をフーリエ級数で表現できる理由は(任意の周期的な形状をフーリエ級数で表現できる理由は)、周期的形状が2重円構造の2意識の相互作用で生成されているからなのです。

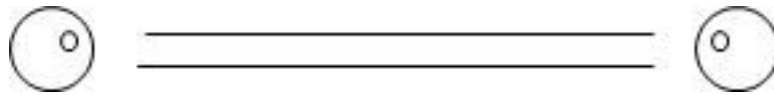
全ての構造は周期的です。(自分自身が1周回転(自転)すると、世界は回転前の状態に戻ります。これは、世界が周期的な構造で構成されていることを意味します。)

よって、宇宙の全ての構造は、フーリエ級数で表現可能ということになります。

これは宇宙が2重円構造で構成されていることを意味するのです。

2意識の生成方法

「5次元理論 第3巻 認識の原理」で、2重円中心間の移動方法を説明しました。

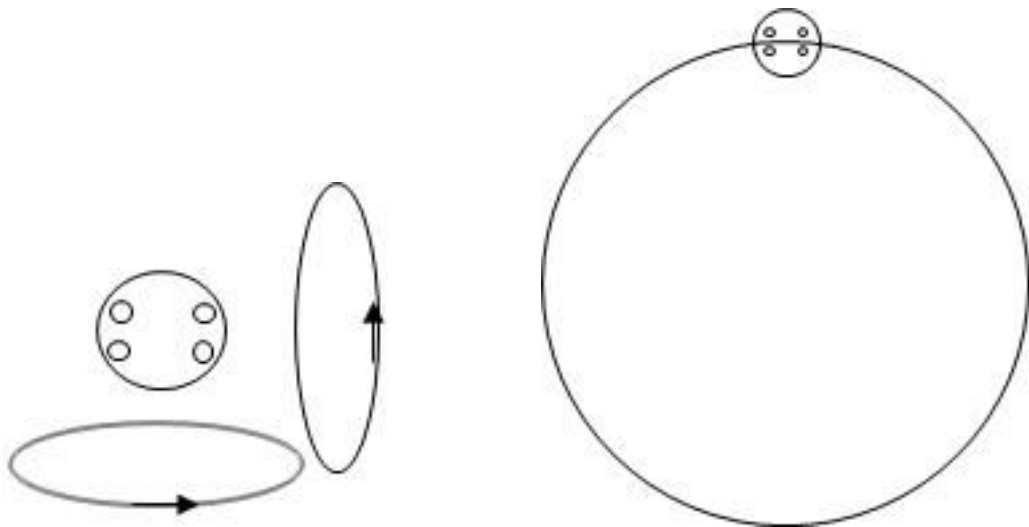


(図3) 2重円中心間の移動方法 (距離無限大)

その中で、平行な2線の無限遠方を見ることにより、2重円中心間の移動が行われると説明しました。しかし、この考え方だと無限遠方まで意識が移動して、ようやく1回の2重円中心間の移動が行われることになり、極めて非効率です。

(図3)をより正確に説明すると回転構造です。

回転により逆方向を向くことにより、図3の両端の働きを行っているのです。(図5)



(図4) 意識の2方向への回転 (自転)
により2意識が生成される

(図5) 2意識のつながり

(図4) : 2意識 (表面意識・内面意識) は、2方向の自転により生成されます。

下の自転で方向反転が行われ、2意識が生成されます。

右の自転で2重円 (らせん) が生成されます。

(図5) : 2意識のつながりを表しています。

図1のように直線状につながるのでなく、曲線状につながっているのです。

この曲線を直線状に変換して認識像 (世界) が生成されているのです。

(図6) : 外側が表面意識、内側が内面意識の流れを表します。

→表面意識と内面意識のキャッチボールで認識像全体(世界)が成立していることを表しています。

- ・表面意識が内面意識の光(認識対象)になります。
- ・内面意識が表面意識の光(認識対象)になります。
- ・表面意識の流れにより重力が発生します。
- ・内面意識の流れにより斥力が発生します。



(図6) 表面意識と内面意識の関係

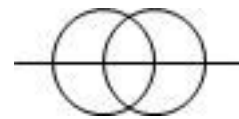
2重円中心間は大らせん

2重円の中心間に(図5)の構造を適用します。すると、(図8)のような大らせん構造になります。

(第3巻迄では)2重円の中心間を結ぶを図5のように説明していましたが、実は直線状ではなく、大らせんでつながっています。(図8)

(図8)では、大らせんを横から見えています。大らせん1周で2重円の中心間の距離だけ移動します。

2重円の中心を通る線のペア(中心軸とらせん)は第3巻までの説明(らせん形等々)では別々と思われていたかもしれませんが、実は大らせんとしてつながっているのです。



(図7) 2重円の中心を結ぶ線
(第3巻迄の説明)



(図8) 2重円中心間
より正確な理解

2重円認識の基本 - 90° 毎の回転

2重円の中心間の移動は、2重円の中心軸（2重円に直交する大らせん）を直線変換することによる行われます。

(①)

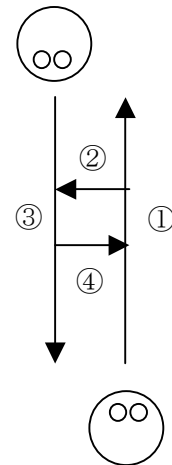
実際の2重円中心間の移動は図7の横方向の矢印(②)になります。(縦の矢印の長さは横の矢印の長さとは比べて無限大になります)

この時の移動方向は、中心軸(①)に対して90°回転します。

認識の主体・客体を入れ替える際、更に90°回転します。(③)

元の中心軸に認識主体が戻る場合、更に90°回転します。(④)

このように、2重円による認識処理には90°ずつの方向転換が必須なのです。



(図9) 2重円中心間の移動

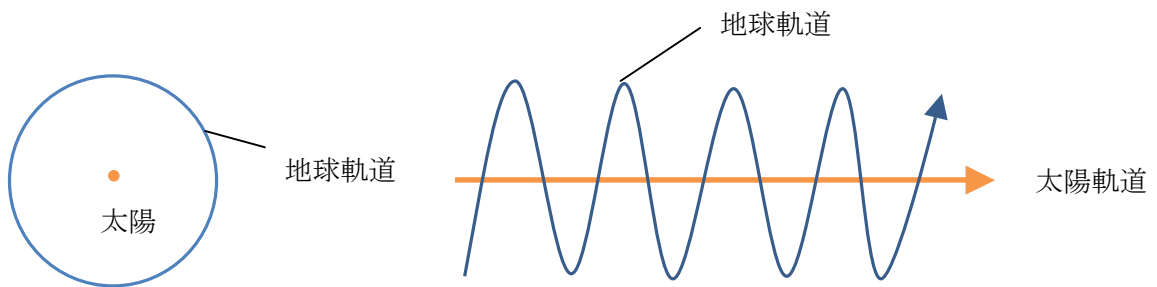
地球公転軌道はらせん形

太陽の回りを地球は公転します。

時間と共に太陽が公転面（公転軌道を含む平面）と直交する方向に移動すると考えます。

すると、太陽と地球の移動経路は中心軸とらせんの関係になります。

太陽は中心軸、地球がらせんになります。



(図10) 地球の公転軌道

(図11) 太陽移動による地球の公転軌道

太陽と各惑星の移動経路も同様の関係になります。

太陽が中心軸、各惑星がらせんになるのです。

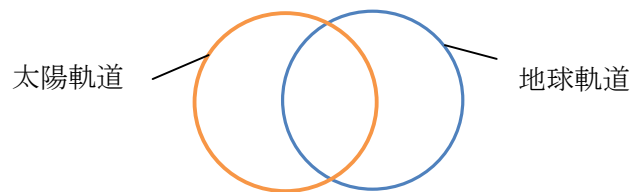
太陽と地球は2重円構造

地球の公転を停止し、太陽が地球の回りを回転していると考えても、太陽と地球の相対的な位置関係は変わりません。

この太陽の回転を、地球の公転軌道を見る方向の逆方向から見ると、地球の公転軌道と太陽の回転は互いに逆回転になります。

この2種類の回転を同時に図に示すと、2重円構造になります(図12)。

(2重円構造については「第2巻」の「2重円構造」ご参照)



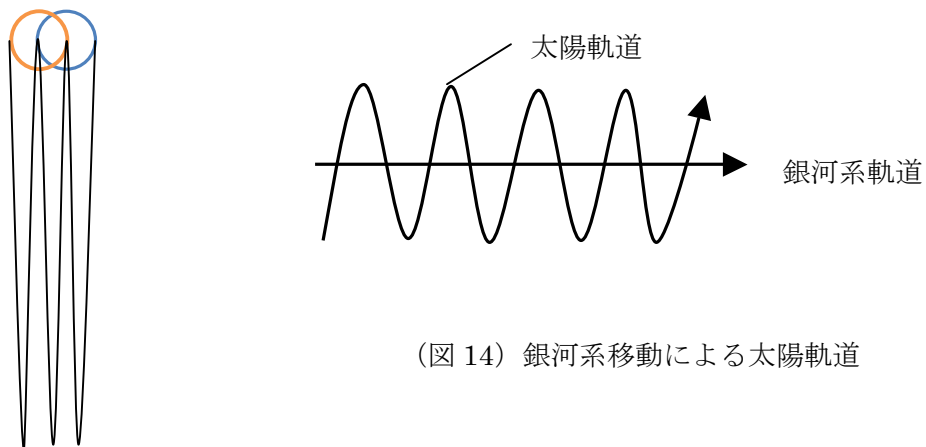
(図 12) 地球と太陽の2重円構造

太陽軌道は大らせん

太陽は銀河系の内部を回転しています。(図11)では、太陽軌道を直線状に記載しましたが、正しくは銀河系内の回転構造になります。

時間と共に銀河系が(太陽の回転起動を含む)平面に垂直な方向に移動すると考える場合、太陽の回転軌道は大らせん軌道になります(図14)。

地球の公転軌道に対してはるかに大きくなりますから、これは大らせんということになります。このように、銀河系内の太陽の軌道は大らせんになるのです。



(図 14) 銀河系移動による太陽軌道

(図 13) 2重円構造(太陽系)
と大らせん(銀河系)

太陽系と銀河系の関係が（図 13）になります。
2重円構造が太陽系、大らせんが銀河系を意味します。

宇宙は多重らせん構造

宇宙の構成要素を 「銀河系・太陽系・人・電子軌道」 に大別します。
それぞれの大きさは以下になります。

銀河系（直径） : $9.46 \times (10^{20})$ (m)
太陽系（直径） : $1.16 \times (10^{11})$ (m) (水星の公転軌道)
人 : 1.7 (m)
電子軌道 : (10^{-10} 乗～ 10^{-13} 乗)

銀河系、太陽系、電子軌道は、それぞれらせん形を構成します。

4要素の大きさの比は 10^{10} 乗程度になっています。これがらせんの大きさの比を意味します。比が一定であるということは、宇宙がフラクタルで構成されていることを意味します。

宇宙はらせんのフラクタルで構成されています。この構造を多重らせん構造と呼びます。
宇宙は多重らせん構造なのです。

フラクタルによる物質生成

宇宙は多重らせんによるフラクタルで構成されています。
フラクタルは大小の同形構造が無限に続く構造です。同形構造の重ね合わせが無限に続くのです。

宇宙は人の意識で生成されています。この意識がフラクタルを構成します。

人の意識のエネルギー（電磁波のエネルギー）は一重ではそれほど強くありません。

しかしフラクタルにより無限回の重ね合わせが行われると、非常に強いエネルギーになります。これを私たちは「物質」と呼んでいるのです。

しかし、物質は従来思われていたように、人から分離した存在ではありません。人の意識で生成されているのです。

フラクタルによる太陽光エネルギーの生成

地球の公転はフラクタルにより、公転の中心である太陽のエネルギーになります。

このエネルギーが、太陽光エネルギーの源泉です。

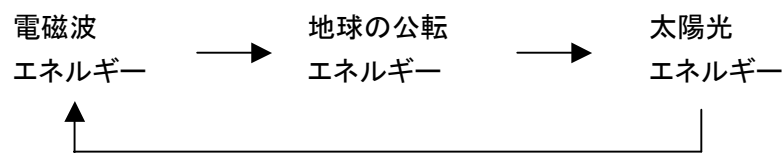
地球の公転軌道は電子軌道と同等です。

(「第3巻 惑星軌道と電子軌道は大小逆転結果」ご参照)

また、電子軌道は電磁波の縮退結果です。

(「第3巻 電磁波と2重球構造の関連」ご参照)

よって、地球の公転エネルギーの源泉は電磁波のエネルギーということになります。



上図から、エネルギーが循環していることが分かります。電磁波エネルギーや惑星の公転エネルギーとして、エネルギーは循環するのです。

このように、宇宙はフラクタルによるエネルギーの増幅・循環構造なのです。

この構造によりエネルギーは増加します。

現在の科学理論では、核融合により太陽光が発生すると説明しています。このため、太陽のエネルギーは有限だと考えられています。

しかし、これはフラクタルによるエネルギーの増幅・循環を見落とした考え方であり、誤りなのです。

太陽のエネルギーに限界は無いのです。

太陽光は認識主体

太陽光には大別して2種類の役割があります。

- (1) 認識客体の光として昼間の明るさを提供する。
- (2) 認識主体の光として惑星軌道(電子軌道)の認識を行う

従来、太陽光の役割は (1) だけだと考えられていましたが、(2) も太陽光の役割です。

地球の公転軌道は電子軌道と同等と説明しました。公転軌道を電子軌道と認識する認識主体が太陽光なのです。

電子は無数に存在します。公転軌道を電子軌道と認識するためには、公転軌道を何度も認

識しなければなりません。

太陽から放射された光は無限回循環します。この循環により、公転軌道を無数の電子軌道として認識しています。

太陽光は私たちの意識です。

太陽光（認識主体としての意識）を無限回循環させることにより、惑星の公転軌道を無数の電子軌道として認識します。このようにして世界（認識結果）は成立しているのです。

尚、認識主体の光の速度は無敵大なので、無限回循環が可能です。

認識主体－客体間の光の速度は秒速約 30 万キロです。

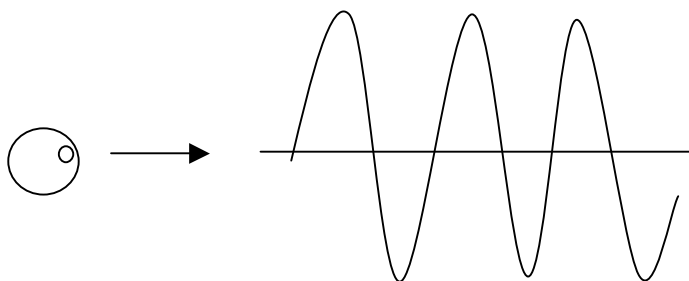
銀河系はらせん形の縮退構造

銀河系はらせんの中心軸が縮退した構造です。銀河系は元々らせん形なのです。

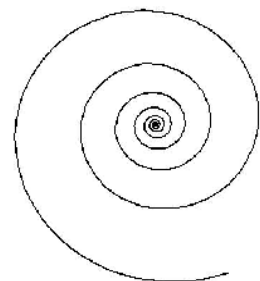
中心軸方向からこのらせんを見ると、遠方ほど中心近くに見えることとなります。

(図 15、図 16)

銀河系が渦状に見えるのは、このようにならせんの遠方が中心に近づいて見えるためです。実際に中心に近づいて移動するわけではないのです。



(図 15)

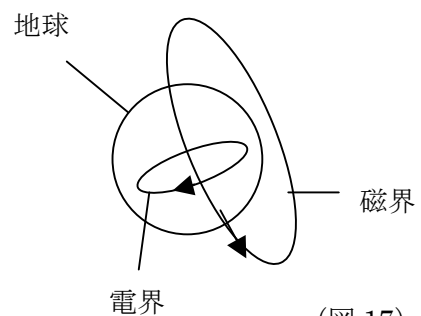


(図 16)

多重らせんによる地磁気の発生

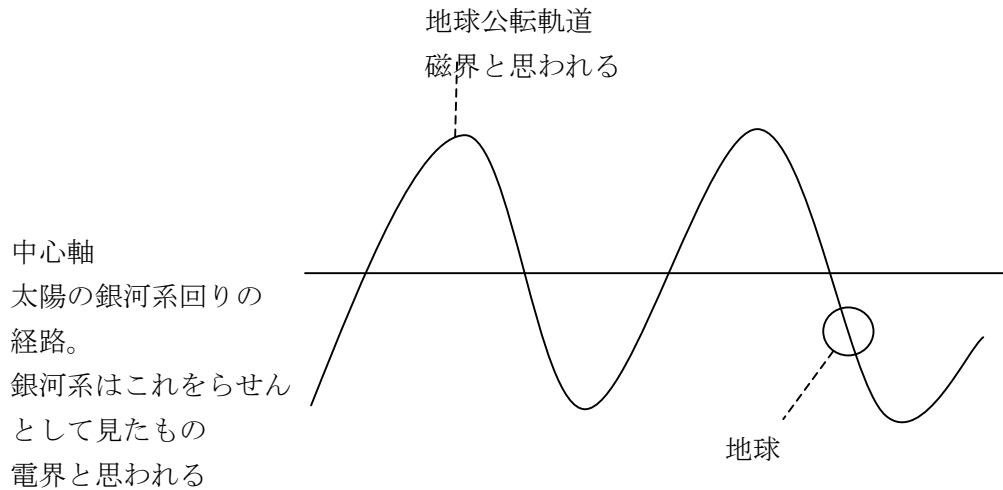
地磁気は南極から出て、北極に入ります。
南極が磁石の N 極、北極が S 極になります。

地磁気は発生理由が明確になっていません。
しかし、地球の内部で自転と逆方向に電流が
流れていると考えると説明可能です。右ねじの



(図 17)

法則により、自転逆方向の電流は地磁気を発生させるためです。



(図 18)

太陽と地球は 2 重円構造を構成します。(太陽と地球は 2 重円構造 ご参照)
2 重円構造は電界と磁界で構成されます。太陽と地球では、地球の軌道が磁界を構成します。

(理由) -----

惑星軌道は時間の構造ですが、時間は見えません。

(第 3 巻「惑星軌道や電子軌道は時間の構造」ご参照)

電界には電子という構成要素がありますが、磁界には構成要素がありません。

よって、見えない時間の構造である惑星軌道は磁界に該当すると考えるのが妥当なのです。

(図 18 の説明)

太陽の銀河系内の軌道と地球公転軌道、地球の自転は多重らせんを構成します。

地球の自転は地球の各点の回転であり、多重らせんで構成されるのです(小らせん)。

この小らせんの中心軸(地球公転軌道)を縮退すると、地球が構成されます。

これが地球の生成原理です。銀河系と地球は同じものの別の見方なのです。(注 1)

太陽の銀河系内の軌道が多重らせんによる変換で、地球内部の自転と逆方向の電流になっていると考えられます。この電流により、地磁気が発生しているのです。

(注 1) 補足説明

人と銀河系は同じものの別の見方と説明しました。

(「第 3 巻 銀河系と人は大小逆転結果」ご参照)

認識処理を行う意識の速度で、認識結果の大きさは変化します。(特殊相対性理論の原理

によります)。銀河系は人と認識される場合もあれば、地球と認識されることもあるのです。これらの認識処理結果を重ね合わせて、世界（認識処理結果）は生成されるのです。

地球は発電装置

太陽の銀河系回り経路1周当たりの地球の公転軌道回転数と、地球の公転軌道1周における地球内部の電界回転数の比は一致します。（フラクタルなので、回転数比が一致します）

前者は太陽系が銀河系を1周する年数になります。

2. 26 × 10⁸（年）です（2. 26億年）。

・ 前者の公転軌道回転数は2. 26億回になります。

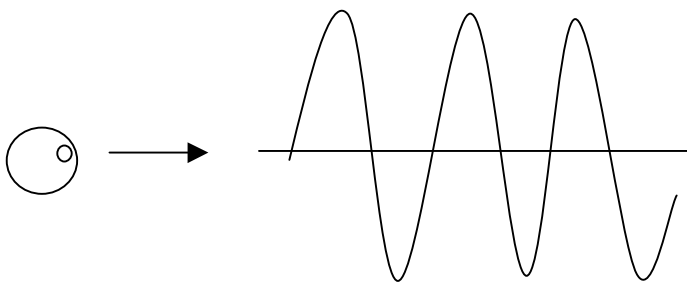
地球の公転1周に要する時間である1年で、地球内部の電界は2. 26億回転することになります。1秒あたりに換算すると7. 17回転になります。これに地球上1周の距離4. 0万キロをかけると28. 7万（キロ/秒）になります。これは光速（30万（キロ/秒））にほぼ一致します。

以上から、電流が地球内部を自転と逆方向に流れているという結論を得ることができます。地球自体が大きな発電装置なのです。

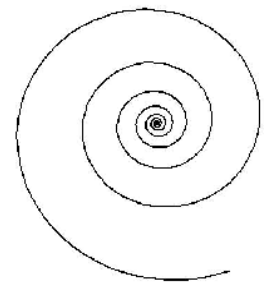
引力の発生原理

世界は認識処理の結果です。意識がらせん形を生成することにより、世界は成立しています。

らせんを中心軸方向から見る場合（図19）、遠方ほど中心に近づく回転に見えます。（図20）。



（図19）



（図20）

（図20） のらせんを時計回りの方向に回転しながらみると、らせんの回転が相対的に無くなるため、中心方向への直線になります。これが引力の発生原理です。

らせん形による中心方向への運動のうち、回転成分が無くなった中心方向への運動を、引力による運動と呼んでいるのです。

(図 20) はこのらせんの中心軸縮退結果です。(中心軸を短縮し、見えなくした形状)。このらせん(図 20) を時計回りに回転しながら見ると、中心方向への仮の力が発生しているように見えます。この力を引力と呼んでいるのです。

世界は 2 種類の意識で生成されます。

時間方向(内面意識、磁界成分)と空間方向(表面意識、電界成分)の 2 意識です。

引力は、曲線状の時間を意識が移動することにより発生します。この曲線が、(図 20) のらせんなのです。「第 3 巻 斥力の発見」ご参照)

惑星の公転軌道は、太陽が惑星の公転軌道面に直行する方向に進むと考えると、らせん形になります。(図 19 と同様の形状です)。これは時間のらせん形が、そのまま惑星の運動として表れたケースと考えられます。

この場合、惑星と太陽の間に引力は発生しません。図 1 のらせん形として惑星は公転するのです。

一方、らせんを縮退すると(図 20 の状態)、引力が発生します。

地球は公転軌道(らせん)を縮退して生成されます。

(「多重らせんによる地磁気の発生」ご参照)。

このようにらせんを縮退すると、引力が発生するのです。

惑星等、らせんを縮退した構造では引力が発生し、物は(惑星重心に向かって)落ちます。

惑星は元々定点です。2 重円の認識で回転は中心点の自転と説明しました。「第 3 巻 鏡像原理」ご参照)。

この原理で惑星は公転しているように見えますが、元々は定点です。意識の自転により公転運動しているように見えているだけなのです。そして、この公転軌道(らせん形)の縮退による見かけの力が引力なのです。

現在の科学理論では、「惑星と太陽の間には引力が作用しており、この力と惑星の公転による遠心力が一致しているから惑星は太陽に引き寄せられない」と考えられています。

この説明では、公転速度が遅くなれば遠心力が弱くなるため、惑星は太陽に落ちることになります。

しかし、実際には公転が停止しても、惑星は太陽に落ちません。

太陽と惑星の間に働く引力は、公転軌道をらせん形(図 2)とみなした場合の見かけの力です。

公転が止まればらせんが無くなるため、惑星と太陽の間の引力も無くなるのです。

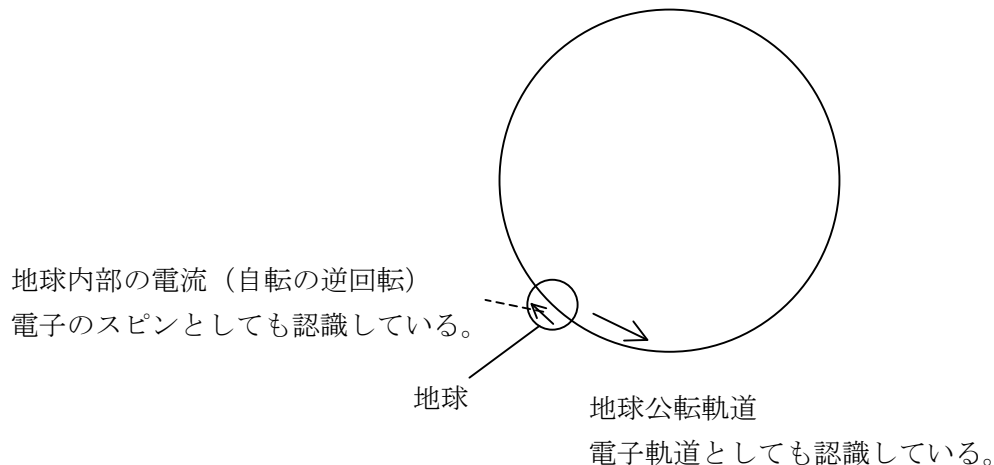
公転軌道は電子軌道

地球の公転軌道は電子軌道でもあります。

(「第3巻 惑星軌道と電子軌道は大小逆転結果」ご参照)

また、地球内部には自転と逆方向に電流が流れていると説明しました。

(「多重らせんによる地磁気の発生」ご参照)。



地球内部の電流は電子軌道上の1点(公転軌道上の地球、と同じ関係)なので、電子ということになります。また、地球内部の自転と逆方向の回転は、電子の自転なのでスピンのことになります。

地磁気はスピンに伴う磁界ということになります。

電子に関して、以下の関係が成立します。(注1)

- ・電子の公転軌道の半径 : $10^{(-10)}$ メートル (注2)
- ・電子の自転半径 : $10^{(-14)}$ メートル
- ・電子は公転軌道1周につき1億回自転する。

地球に関しては、以下の関係が成立します。

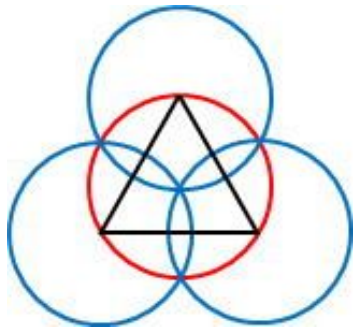
- ・地球の公転軌道半径 1.5億キロ
- ・地球の自転半径 6378キロ
- ・太陽系の銀河系1周で 2.26億回公転。これは1年間の地球内部電流の回転数を意味する。(「地球は発電装置」ご参照)

公転軌道半径と自転半径の比、及び公転軌道1周当たりの回転数が、両者でほぼ一致しています。これは電子軌道と惑星軌道が同じものであることを意味しているのです。

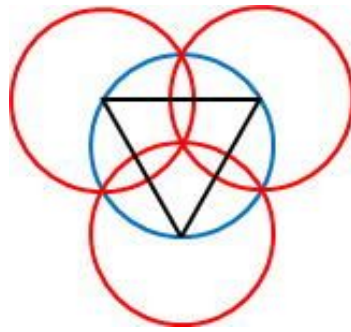
以上の考察から、地球の公転軌道が電子軌道であることを、より明確にご理解頂けると思っています。

- (注1) 「なっとくする量子力学」(講談社)から引用。
 (注2) 10^{-10} は10のマイナス10乗の意味。

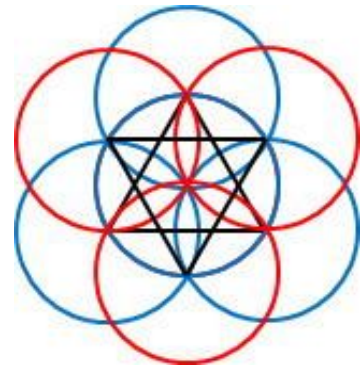
4重円構造とは



(図 21)



(図 22)



(図 23)

4重円構造 (図 21~図 23)

4重円構造は、同じ大きさの4つの円で構成されます。中心に1つの円があり、その円周を中心とする3つの円が配置されます。3つの円の中心を結ぶ線分は、正三角形になります。

中心の円と周囲の3つの円は、互いに逆方向に回転します。3つの円は同方向に回転します。

上図では、赤を反時計回り、青を時計回りとしています。

前後方向に 180° 、上下方向に 180° 回転して (図 21) を見ると、(図 22) になります。このように2方向に 180° ずつ回転した状態を重ね合わせて認識像が生成されます。

(「第2巻 2重円構造」ご参照)

(図 21) と (図 22) を重ねると、(図 23) になります。これが4重円構造の認識像になります。(図 23 の中心の円は、赤円と青円を重ねて構成されます)

4重円構造は2重円構造を複数組み合わせた構造です。認識像生成に必須の構造なのです。

(「第3巻 内側と外側の認識」ご参照)。

4重円構造はオーラ増幅構造

4重円構造(図 21~図 22) にオーラを放射すると、オーラのエネルギーが増幅されます。増幅方法は以下になります。

- (a) 4重円構造（図 21、もしくは図 22 の構造）を、地球の重心と地表を結ぶ直線に直行する方向にイメージします。（引力に直行する方向に4重円構造をイメージします）。
- (b) 図の回転方向（赤：反時計回り、青：時計回り）にオーラを放射します。
→ 図 1、もしくは図 2 のどちらか一方だけを使用します。すると、逆方向のオーラの回転も同時に生成されます。（図 1 のオーラを放射すると図 2 のオーラ放射も行うこととなります。図 2 のオーラを放射すると図 1 のオーラ放射を行うことになるのです）
- (c) 生成された図 1、図 2 のオーラを重ね合わせて、図 3 の認識像が生成されます。

このように4重円の形状にオーラを放射すると、オーラが増幅されます。
4重円の中心円の中心部分に、増幅されたオーラが放射されます。

4重円構造を用いてオーラが増幅ができるということは、この構造はエネルギー生成装置であるということを意味しています。

物質とエネルギーは等価です。質量はエネルギーなのです。

4重円構造がエネルギー生成装置であるということは、この構造が物質生成の基本構造であるということを意味します。

4重円構造は、物質の基本構造なのです。

六芒星（ダビデの星）の本質的な意味は、4重円構造です。

（輝の会教義—宗教「輝の会とユダヤ教の関」ご参照）

4重円構造の説明から、六芒星はエネルギー生成装置、物質の基本構造であることが分かります。これが六芒星が重視されていた本当の理由なのです。

4重円構造を利用してオーラを増幅し、そのオーラを用いて人類浄化や人類の霊位向上を行うと、極めて効果的です。

試してみても如何でしょうか。

らせんの直線変換による認識像生成

光は電磁波です。電磁波は電界・磁界の組み合わせで生成されます。この電界・磁界が2種類の意識（表面意識（空間）、内面意識（時間））に該当します。（注1）

認識処理において、この2意識の一方が主体（認識する側）、他方が客体（認識される側）になります。

私たちは光を直線変換することにより認識像（世界）を生成しています。

（第3巻「空間は光の直線変換結果」ご参照）

光の直線変換とは、認識主体を直線に変換することを意味します。この場合、客体はらせん形になります。

内面意識（時間）が認識主体の場合、時間を直線に変換することにより認識像を生成します。

一方、引力は時間の曲率から発生します。これは表面意識（空間）が認識主体の場合の認識像です。

時間の直線変換で空間（電子や惑星等の回転構造、空間の構成要素）を生成し、空間の直線変換による時間の曲率から引力が発生しているのです。認識主体の入れ替え（時間／空間の入替）が、曲がりのない空間における引力（時間の曲率が原因）の生成要因なのです。

惑星軌道や電子軌道は、時間の曲がりで生成されています。これは認識主体を空間にする場合の時間の曲がりです。主体が時間である世界（通常の世界（表面世界））では時間を見ることはできません。主体は主体を見ることができないのです。

直線（曲がりの無い空間の構成要素）と見えない曲線の組み合わせで世界は構成されています。これが世界の基本構造なのです。

（注1） 表面意識（空間）、内面意識（時間）は通常の世界（表面世界）における関係です。内面世界（霊界）では時間と空間の関係が入れ替わります。

時間・空間の連続相互作用による宇宙の創造

時間の直線変換で空間を生成し、空間の直線変換で時間の曲がりを生成します。

時間の形状と空間の形状は互いに影響を与え合っているのです。

よって、時間を変形させると、空間が変形することになります。また、空間を変形させると時間を変形します。

この時間・空間の相互作用は連続作用になります。

（・・・－時間変化－空間変化－時間変化－・・・）

5次元理論は時間と空間の連続相互作用による、宇宙全体の創造に関する理論です。

空間の変化が時間の形状変化につながり、これが空間の変化につながるという理論です。

人の行動パターンが人や社会、宇宙全体の形状変化につながるという理論です。

空間の変化（行動パターンを含む）は時間の変化を通じて周囲に伝播します。1人の行動

の変化が、人類全体を変えることも可能なのです。

世界の形を決めているのは時間の形です。ここを認識客体が動くことにより、時間の形の認識が可能になります。(惑星の公転軌道を見て、これを時間の形と認識する等)

時間の形により引力が発生します。(「引力の発生原理」ご参照)。

引力の本質的な意味は、世界の形状を生成することにあるのです。

時間の形は内面意識の形です。内面意識でこれをコントロールすれば物の形状を操作することが可能です。

表面意識と内面意識の相互作用で認識は成立します。両意識による認識処理を操作すれば、光(意識)の流れが変わることになります。時間の形状が変化し、物質の形状が変化するので。

時間の曲率が大きいほど引力が強くなり、物が密集します。光の集まる場所が、物の密度の高い場所なのです。逆に、時間の曲率を小さくすれば、物の密度は減少します。世界を軽やかにすることも可能なのです。

閉じている(物)と開いている(空間)は同じ存在です。

物は、その構成要素を含む球を外側から認識した場合の認識像です。空間はその球を内側から認識した場合の認識像です。物を内側から認識すると、自分自身(認識主体)を囲む大きな空間として認識できるのです。

よって、時間を変形させて物の形状を変化させると、空間の形状が変化することになります。

宇宙は意識で構成されます。理解は意識の形です。ですから理解度を高めると、宇宙の構造が変化します。宇宙が高度化されるのです。

原子力発電は全廃すべき

「5次元理論 第3巻」の「5次元はフラクタル構造」で、

「世界はフラクタル構造なので、各点は互いに内包し合っています。ですから、ある点は他の点に内包されます。ある点は他の点の構成要素になっているのです。」

と説明しました。これは、1つの認識ポイントが多数の点の構成要素になっていることを意味しています。よって、1つの点を破壊すると、多数の物質を破壊することになります。

原子力エネルギーは原子核の質量を変換して生成されたエネルギーです。当然質量は減少します。質量の減少は物質の減少を意味します。フラクタル構造から、これは他の物質の破

壊を意味することになります。人の肉体を破壊していることになるのです。

ですから、原子力エネルギーの使用は禁止すべきです。当然原子力発電は全廃すべきです。

ある原子の構成要素と他の原子の構成要素が完全に独立している、全く別物であるという研究は全く行われていません。ですから、原子力エネルギーの使用が他の原子に影響を与えていても不思議ではないのです。

また、原子力エネルギーの使用が将来の原子の状態に影響を与えるかどうかを確認する研究は全く行われていません。原子力エネルギーの使用が将来の人や宇宙の破壊につながる可能性があるのです。

認識方法により時間の長さは変わります。現在の行為が将来に影響を与えても不思議ではないのです。

宇宙のフラクタル構造から太陽光のエネルギーは生成されています。

(「フラクタルによる太陽光エネルギー生成」ご参照)

核融合反応が太陽光エネルギーの根本理由ではありません。ですから、核融合反応でエネルギーを抽出するという科学理論は本質的に誤りなのです。

以上から、原子力発電等の原子力エネルギーの使用は早急にやめるべきなのです。

5次元理論は人と環境の一体化理論

現代社会の特徴は、物事のつながりを正確に理解できていない点にあります。

経済では、今保有している貨幣と将来の貨幣のつながりが正確に理解できていません。

(拙著「フラクタル経済理論」ご参照)

科学では、環境と自身のつながりが正確に理解できていないのです。

「世界は物(粒子)だけで構成されている」という誤った考え方が、正確な理解を阻んでいるのです。

フラクタル構造により、人は互いに共有関係で成立しています。また、周囲の環境や人々に与える影響が自身の体を構成しています。想念・行為で周囲に悪影響を及ぼすと、この想念・行為は自身への影響として還元されるのです。

病気の原因である細菌等は、人の歪んだ想念・行為から発生していることになります。

天界(守護神霊の世界。輝の会教義—宗教「霊位分布図」等ご参照)の光による浄化(完全調和の世界をこの世界に映し出すこと)を行うと、インフルエンザ等の病気は消えます。これは病気の原因となるウィルスの発生原因が人の歪んだ想念・行為であることを意味しています。

病気の本質的な原因を正確に理解することが、本質的な解決策につながるのです。

現在不治の病と考えられている症状の原因究明が進まない理由は、5次元の考慮もれにあります。

5次元はフラクタル構造です。肉体の外側から肉体に影響を与える場合があります。

現在の医学は症状の原因を肉体の内側に求めるため、外側に原因がある場合の原因究明が不可能になっているのです。

5次元の発見はこのように医学界にも格段の進歩をもたらすことになるのです。

5次元理論により他の人々や環境と自分自身とのつながりに関する理解が正確になります。この理論の発展が真の健康樹立に極めて重要なのです。

1人でも多くの方に5次元理論への興味を持って頂くことを心より希望しています。

肉食（哺乳類）によるがんの発生

人と哺乳類の体の組織はフラクタルで繋がっているのではないのでしょうか。

この場合、哺乳類を食べることは自分の体を食べることになります。

これが、がんの原因と考えられます。

時間の長さは認識処理の方法により変化します。今行ったことが将来の自身を構成しているのです。よって、哺乳類を食べた影響は将来の自身を構成することになります。

遺伝子はDNAにあります（DNAの一部が遺伝子）。DNAは二重らせんで構成されています。

宇宙は多重らせん構造で構成されています。（「宇宙は多重らせん構造」ご参照）
多重らせん構造とDNAのらせん形には関連があると考えられます。

DNAは全ての細胞に存在します。その理由は、フラクタルで肉体が構成されているためです。

フラクタルは部分と全体が同形の構造です。フラクタルにより、人の構造に関する全情報が肉体の構成要素（部分）である全細胞に含まれているのです。

遺伝子は行動パターンの記録と考えられます。行動形態を変化させると、遺伝子は変化すると考えられます。

また、全ての存在は意識による認識処理の結果です。意識を変えれば、状態は変わります。

遺伝子も私達の意識で構成されています。この意識を変化させれば、肉体の構成を変えることができるのです。

（意識コントロールや行動パターンの変化で形状は変化します。

「時間・空間の連続相互作用による宇宙の創造」ご参照）

がんは遺伝子情報の異常により発生します。意識のあり方や行動パターンに問題があるため、遺伝子情報が異常になるのです。

意識のあり方や行動パターンを正常にすれば、遺伝子情報が正常になる為、遺伝子を原因とする病気は消滅します。遺伝子の問題は意識のあり方や行動パターンを変えれば解消するのです。

人と哺乳類の遺伝子情報はつながっていると考えられます。人の遺伝子情報の中に、他の哺乳類とつながる情報（哺乳類の遺伝子情報）と本文では記載します）があるのではないのでしょうか。

哺乳類を食べると、遺伝子にこの情報が記録されると考えられます。

哺乳類を食べた人の遺伝子（哺乳類の遺伝子情報）に食べられた動物（哺乳類）の「食べられる」という情報が記録されるのです。

「食べられる」と記録された遺伝子はその情報を実現する時、即ち細胞が「食べられる（破壊される）」時、がんという症状になると考えられるのです。

この場合、哺乳類を食べることを止めれば、その分がんの原因は減少します。当然がん患者数は減少することになります。

人の意識のあり方や行動パターンは様々です。そして、これらの情報が遺伝子に記録されます。肉食（哺乳類）以外の行動が、この影響を除去する場合もある為、肉食（哺乳類）をしたら必ずがんになるとは限りません。

積徳には、肉食（哺乳類）の影響を除去するはたらきがあります。

積徳は、自分以外の人などに施しをする行為です。これは他者を生かすはたらきなので、自身の遺伝子に「生かされる」と記録されることになります。

肉食（哺乳類）による遺伝子への悪影響を、積徳の遺伝子へのプラスの影響で除去できるのです。

輝の会では積徳による開運を受け付けています。

この開運をお申込み頂くと、徳光をお分けします。この徳光には開運対象者を生かすはたらきがあります。開運対象者の遺伝子に「生かされる」と記録されることになるのです。

開運には人を長寿にするはたらきがあります。お申込みをお待ちしています。

開運のご案内 <http://taki-zawa.net/kaiun/index.html>

遺伝子コントロール

遺伝子は一生不変なのではないでしょうか。

人の行動パターン（意識のあり方を含む）が遺伝子に記録される場合、遺伝子は除々に変わるのではないのでしょうか。

もし変わるならば、本人確認に遺伝子を使うことには問題があることになります。昔の遺伝子と現在の遺伝子が異なるならば、本人確認に遺伝子は使えないことになります。

人の行動が動物の遺伝子（人と共通の遺伝子）に記録され、動物の行動パターンに影響を与えていると考えられます。肉食は、元々動物には無い行動形態かもしれないのです。

人の行動パターンやが動物に影響を与えるということは、人の行動パターンが他者に影響を与えることを意味します。

人類全体の行動パターンが、それを行わない個人にも影響を与えるのです。

人が他者の行動の誤りを修正しなければならない理由の1つはここに 있습니다。

誤った行動は、他者に影響を与えるのです。ですから、これを正すことは、自身を含めた人類全体の行動を正すはたらきなのです。

遺伝子は行動パターンの記録と考えられるため、これを操作することは行動パターンの操作を意味することになります。遺伝子操作は単に動植物の形状や性質の変化を意味するわけではありません。ですから、取扱には注意が必要です。

ここまでの説明で、遺伝子に起因する病気は全て治癒可能であることが分かります。行動パターンを変えれば遺伝子は変わります。遺伝子が正常になれば病気は消えるのです。

原子論からフラクタルへ

私たちは頭部の脳と宇宙大の脳、大小2種類の脳を同時に認識しています。

科学理論では、当然この状況が合理的に説明されなければなりません。

物理学等では、世界は原子の集合で構成されていると説明しています（原子論）。

部分を足し合わせて全体が構成されるという考え方です。部分より全体が大きい

（部分<全体）という関係が常に成立すると説明しているのです。

しかし、この理論は人が大小2つの脳を同時に認識していることに気付いていなかった時代に構築されたものです。

全ては人の意識による認識処理の結果です。宇宙も認識処理の結果です。この情報が頭部の内側にあるということは、脳と宇宙が大小の同形構造であるということを意味します。

宇宙の中に脳があり、脳の中に宇宙があるということは、宇宙・脳の大小の同形構造が無限に連なることを意味します。（・・・－宇宙－脳－宇宙－脳・・・）

このような無限に連なる大小の同形構造をフラクタルと呼びます。世界はフラクタル構造なのです。

よって「世界はフラクタルで構成されている」と科学理論でも説明すべきなのです。

原子の周期律表は、フラクタルの構成パターンとして説明すればいいことになります。

フラクタルでは、全ての点は同時に空間になります。全ての存在は閉じた物ではなく、宇宙を内包する広大な空間でもあるのです。

原子論では、頭部の脳の構造は説明できるのですが、宇宙大の脳の構造を説明することができません。脳よりはるかに大きい宇宙（頭部で情報処理された結果）が脳の内側に存在する理由を説明することができないのです。

よって、世の中が原子で構成されているという考え方は誤りなのです。

そもそも科学理論は、宇宙がフラクタルであることを理解できていない状況で構築されたものです。その結果「原子で世界が構成されている」と誤った説明しているのです。そして、宇宙の構造を説明する際には、原子の構造と全く別の説明を行っているのです。

宇宙はフラクタルです。フラクタルでは大小の同形構造が無限に連続します。原子論ではフラクタルの小さい方の構造を原子と呼んでいるのですが、大きい方にも同形構造が連なることを説明できていません。その結果、科学理論では宇宙の構造を原子の構造と切り離して説明しています。

フラクタルの大小は同形構造なので、大小の構造を全く関連の無い別の名称で呼ぶのは不合理なのです。

原子という言葉は

「全ての存在は点（部分）の集合体であり、空間ではない」

という誤った理解につながりやすいので、フラクタルという用語にすべきなのです。その方が正しい理解につながるのです。

言葉は理解を伝えるために存在するのです。

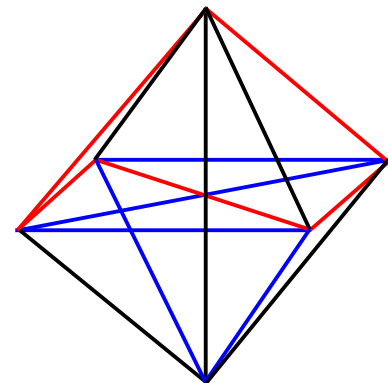
ピラミッドパワーの性質

ピラミッド形は意識の形です。5次元理論の基本図形の1つです。

（「第1巻 意識の方向性・形」、
「第2巻 5次元理論 基本図形」 ご参照）

（図24）の赤線、青線が2意識
（表面意識、内面意識）に該当します。

ピラミッド形の特徴はピラミッドパワーです。
物の形状を安定させる効果があることが知られています。



（図 24）

「オーラを見る方法」（輝の会教義—宗教）を使用すると、

ピラミッドからオーラ（調和のエネルギー）が放射されていることが分かります。但し、これには条件があります。以下にその内容を記載します。

（前提条件： ピラミッド底面が引力に直行する方向に、ピラミッドを配置します）

＜ピラミッドパワーの性質＞

1. ピラミッドパワーはピラミッドの4底辺が東西南北方向を向いた時、最も強力になります。
2. ピラミッドの中心軸（図の縦線）回りに、東西南北方向から 45° 回転させると、いわゆるピラミッドパワー（形状を安定させるエネルギー）とは正反対のエネルギー放射されます。不調和のエネルギーが放射されるのです。
3. 1の方向からの回転角度が大きくなるほど、ピラミッドパワーは弱くなります。1と2の中間の位置で、ピラミッドパワーは感じられなくなります。
（プラスのエネルギーもマイナスのエネルギーも放射されなくなります）
それ以上回転角度が大きくなると、不調和のエネルギーが放射されます。

1の状態では放射されるエネルギーがオーラ（調和のエネルギー）です。

2の状態では放射されるエネルギーは形状を破壊するエネルギーです。不調和のエネルギーなのです。

よって、ピラミッド形を使用する場合には、その方向に注意する必要があります。

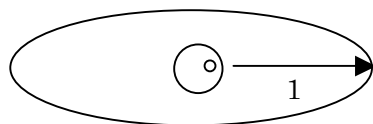
底辺を東西南北方向に向けないと、本来のピラミッドパワーを得ることができないだけでなく、逆のエネルギーを受ける可能性もあるのです。

ピラミッド形は意識の形と説明しました。しかし、ピラミッドの性質から、意識の形を決定する要素は形状だけではないことが分かります

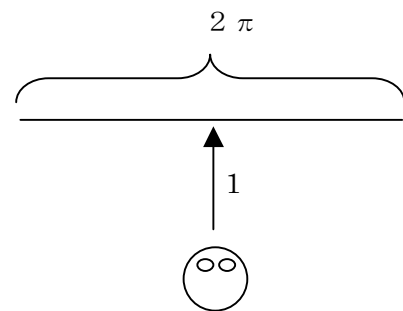
方向も意識の形の構成要素なのです。

認識の基本 — 円形の直線変換

円の中心から円を見て 360° 回転します（円の半径1）。すると、長さ 2π の直線状の認識になります。（直線からの距離は1）



(図 25)



(図 26) 私たちの認識像

認識像は認識主体を中心に構成されます。

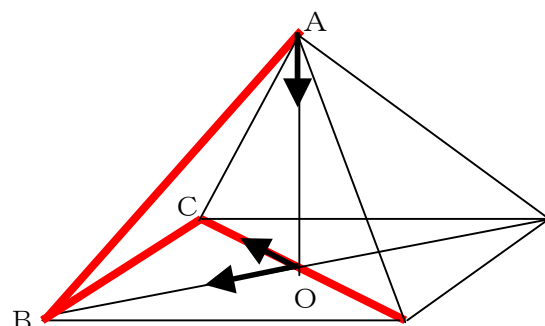
(図 25) では認識主体が自転することにより、円形を認識します。しかし、認識像を生成する際には、自転を感じません。回転による認識処理結果を回転無しとして、認識像を生成するためです。(互いに逆方向の回転を重ねて認識像を生成します)

そして、(図 25) の円を直線 (図 26) として認識します。

ピラミッド形における認識処理

ピラミッド形を用いた認識では、2方向の回転が行われます。中心軸回りの回転と、上下方向の回転です。

(図 27) で説明します。
赤線は意識 (認識主体) の形を意味します。
ピラミッドは高さ1、底辺の長さ $\pi/2$ とします。



(図 27)

<ピラミッド形の認識処理>;-----

1. 初期状態では、点Aに認識主体が位置しています。点Oの方向を向いています。
2. 認識主体が点Oに移動します。その際、上下方向に 90° 回転して点Bの方向を向き、点Bを認識します。
3. ピラミッドの高さを縮退させ、点Aと点Oを同じ点として認識する。
4. 2の回転と同時に中心軸回りに 90° の回転を行い、点Cの方向を向き、点Cを認識します。

- 2で高さ1移動することにより、1の長さを認識し、点Bを認識します。
- 3で点Aと点Oを一致させることにより、ピラミッド形の高さ1を点Oと点Bの距離として認識像を生成します。
- 4で 90° 回転することにより 90° の回転を認識します。この回転によるB→Cの移動で $\pi/2$ の長さを認識します。

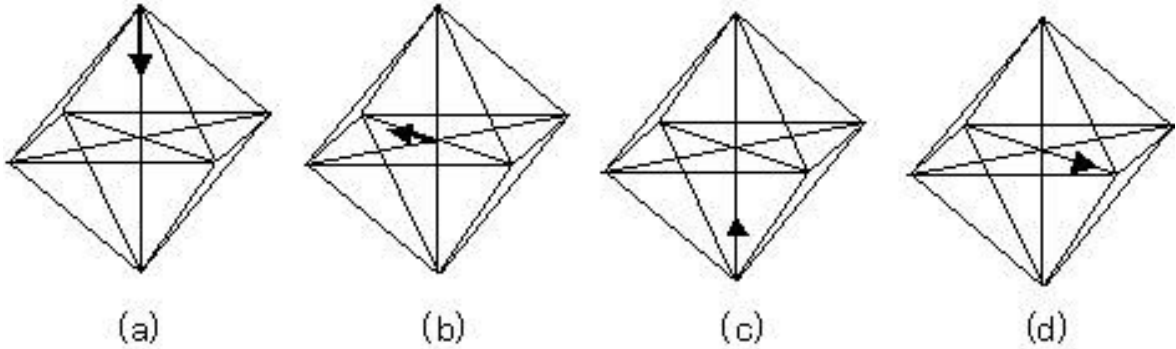
この認識処理結果は、半径1の円 (4分の1の円、中心角 90° 、円周 $\pi/2$) を中心から認識する場合と同じになります。

円形の直線変換では、円形を直線として認識します。

ピラミッド形における認識処理では、直線 (底辺) を円形として認識処理を行うのです。その結果、ピラミッド形を用いた円形の認識像生成が可能なのです。

ピラミッド形における認識処理（2）

ピラミッド形における認識処理では、2方向の回転により底辺を円形として認識します。以下の説明では、ピラミッドの大きさを「ピラミッドにおける認識処理」と同じとします。（ピラミッドの高さ1（上下のピラミッドの中心軸の長さは2）、底辺 $\pi/2$ ）



(図 28)

(図 28) では認識処理における意識（認識主体）の方向を矢印で記載しています。2方向の回転とは、中心軸回りの回転と上下方向の回転です。回転面は互いに直交します。

<ピラミッド形の認識処理（2）>-----

1. (a)→(b)→(c)→(d)の順に認識処理は行われます。
2. 認識主体は中心軸上を移動します。(a)で上のピラミッドの頂点、(b)で底面上、(c)で下のピラミッドの頂点、(d)で底面上に移動します。
3. 認識主体は中心軸の回りを 90° ずつ回転します。(a)→(b)で 90° 回転します。
(詳細は [ピラミッド形の認識処理] ご参照)。
(b)→(c)、(c)→(d)で同じ方向にそれぞれ 90° ずつ回転します。
4. 認識主体は上下方向に 90° ずつ回転します。(a)→(b)で下方から底面に平行な方向に回転します。(b)→(c)で 90° 回転して上方を向きます。(c)→(d)で更に回転して底面に平行な方向に回転します。
3で中心軸回りの回転を同時に行うため、(b)と(d)では互いに逆方向を向きます。
5. ピラミッドの中心軸を縮退させ、中心軸上の点を同一点として認識します。そして、2の移動による長さ1を中心軸（縮退による点）から底辺への認識とします。
6. 3の各処理で底辺の長さ $\pi/2$ を認識します。この認識と5の認識（長さ1の認識）を組み合わせ、半径1の円（4分の1の円、中心角 90° 、円周 $\pi/2$ ）の認識像を4底辺分生成します。これらを合わせて円形認識像が生成されます。

「ピラミッド形の認識処理（2）」の方法でオーラを放射すると、オーラが増幅されます。
(注)。オーラが増幅されるということは、ピラミッド形がエネルギーの生成装置であるとい

うことを意味します。

エネルギーは質量と等価です。ということは、ピラミッド形は物質生成装置だということになります。

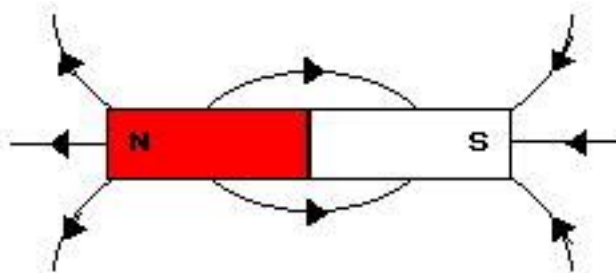
宇宙はピラミッド形を基に構成されているのです。

(注)「ピラミッド形の認識処理(2)」の方法でオーラを放射する場合、ピラミッド底辺の方向を東西南北方向にして下さい。ピラミッド形は方向で性質が変化するため。(「ピラミッドパワーの性質」ご参照)

オーラと磁石の関係

オーラと磁石の関係について説明します。

(図 29) に磁石と磁力線を記載しました。磁力線はN極から出てS極に入ります。N極から出る磁力線の数とS極に入る磁力線の数は一致します。



(図 29)

オーラを見る方法で磁石を見ると、N極とS極で正反対の性質だということが分かります。S極側からオーラのエネルギーが放射され、N極側はオーラのエネルギーを吸収しているのです。

オーラはS極、磁力線はN極から放射されるので、矢印が逆方向の関係になります。

以下に内容をまとめます。

	オーラ放射	霊位
S極	○	プラス
N極	×	マイナス

(表 1) オーラと磁界の関係

(表 1) に記載したように、S極が霊位プラスの世界に該当し、N極が霊位マイナスの世

界に該当します。

ここまでの説明で、オーラのエネルギーは磁界のエネルギーだということをご理解頂けると幸いです。

霊位は磁界の圧力

霊位とは、内面意識の高さのことです。

(輝の会教義—宗教「霊位分布図・神霊の霊位図・輝の会のはたらき」ご参照)

霊位が高い人ほど、内面意識の速度が速くなり、オーラが大きくなります。オーラのエネルギーが強くなるのです。

また、オーラは磁界のエネルギーです。

よって、霊位は磁界のエネルギーを意味することになります。磁界のエネルギーの圧力で、霊位は定義できるのです。

電界の圧力は、電子の偏りで発生します。これを電圧と呼びます。

電界の発生理由である電子に相当する物（単電荷）が、磁界では発見されていません。

本文ではこの（従来の物理学で）未発見の存在を単磁荷と呼びます。

オーラのエネルギーは人の内面意識のエネルギーです。これが磁界のエネルギーであるということは、磁界を発生させているのは人だということになります。

人が磁界の発生源なのです。

磁界の発生理由である単磁荷は、人の内面意識のエネルギーということになります。

世界は人の意識（内面意識、表面意識）による認識処理の結果です。

内面意識に相当するのが磁界であると説明しました。

表面意識に相当するのが電界になります。

認識処理では、認識主体が認識客体を認識します。

通常は、内面意識が主体、表面意識が客体になります。

主体は主体を認識できません。（認識は主体-客体間で成立します）

客体である電界（表面意識）は認識可能ですが、主体である磁界（内面意識）は認識不可なのです。これが単磁荷を発見できない理由です。認識できない存在を測定することはできないのです。

オーラを見る方法を発表するまで、オーラは一般的には見えない存在であり、科学的な用語で説明することは困難でした。

オーラが磁界のエネルギーであり、霊位が磁界の圧力であるという説明は、輝の会が初めて発表する内容です。

この発見により、宗教と科学を一体の理論として論じることが可能になります。
宗教と科学は本来一体の理論なのです。

表面意識と内面意識の相互作用

人の意識は表面意識・内面意識の2種類で構成されています。
(輝の会教義—宗教「表面意識と内面意識」ご参照)

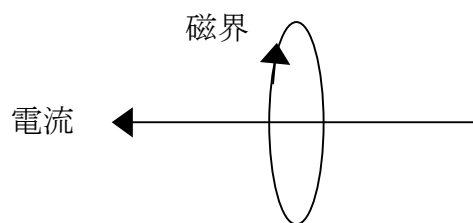
表面意識・内面意識は相互作用で互いに影響を与えています。この2意識の相互作用で宇宙は構成されているのです。ですから、この相互作用を理解することは宇宙の構造を理解する上で極めて重要です。

ここでは、この相互作用について説明します。

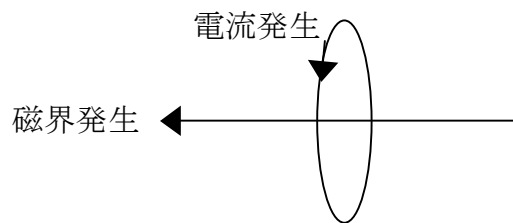
表面意識・内面意識はそれぞれ電界・磁界に該当します。電界・磁界の相互作用が、2意識の相互作用に相当するのです。

電界・磁界の相互作用を示す法則として有名なものに、右ねじの法則と電磁誘導があります。

以下にその内容を説明します。



(図 30)



(図 31)

- 右ねじの法則 (図 30) -----
電流を右ねじが進む方向に流すと、電流の右回りに磁界が発生します。
これを右ねじの法則と呼びます。

→ 電流の作用で磁界が発生する法則と考えることができます。

- 電磁誘導 (図 31) -----
磁界が発生(変化)すると、それ(その変化)を打消す磁界を発生させる方向に電流が一瞬だけ流れます。これを電磁誘導と呼びます。
一般的には、磁界の作用で電流が発生する法則と考えられています。

しかし、本当の意味はエネルギーの保存則と考えられます。
宇宙はフラクタル構造なので、電磁波（光）は宇宙を循環します。磁界の状態が変化した後、変化前に流れていた電流（電界）が宇宙を周回して元の状態を再現するように作用すると考えられるのです。

これが電磁誘導で磁界の変化を妨げる電界（電流）の正体なのです。
短時間しか流れない理由は、磁界変化前の電界（電流）しかエネルギー源が存在しないためです。

右ねじの法則、電磁誘導の説明で、電界と磁界の相互作用についてご理解頂けると思います。

この内容がそのまま表面意識・内面意識の相互作用に該当します。

2意識は常に互いに影響を与えています。これは、影響を与える意識の内容が、他方の意識に記録されることを意味します。

人の想念・行為は全て他方の意識に記録されています。想念行為はその人自身に記録されるのです。

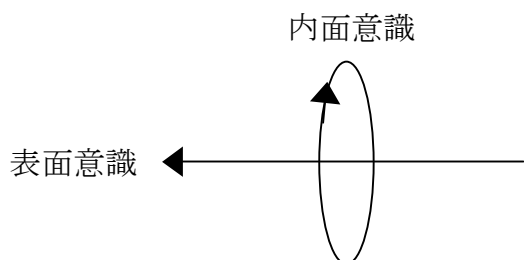
他者・環境へ与える影響は自分自身に記録される

世界は表面意識・内面意識の相互作用で構成されています。

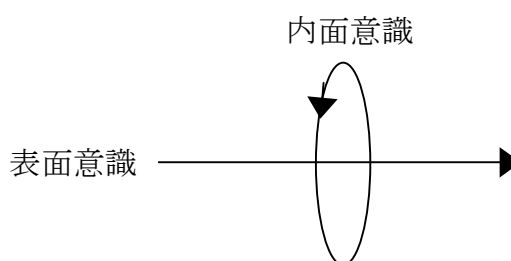
（「表面意識と内面意識の相互作用」ご参照）

表面意識で他者や環境に影響を与える場合、自身には影響が無いように思われます。しかし、世界が自身の2意識で構成されている以上、自身の内面意識に影響を与えることになるのです。

世界は自身の2意識のキャッチボールで成立しているのです。



(図 32)



(図 33)

表面意識と内面意識の相互作用を（図 32）、（図 33）に記載しました。

表面意識が作用すると、内面意識に影響を与えます（図 32）。

表面意識の方向が反転すると、内面意識への影響も反転します（図 33）。

人に何かを与える場合、内面意識にこの行為が記録されます。これを（図 32）の状態とします。

この場合、人から同じものをもらう行為は（図 33）として内面意識に記録されることになります。

与える行為とももらう行為は互いに逆方向の記録になるのです。

このように、周囲の人や環境に与える影響は自分自身の意識に全て記録されています。

私たちの行為は全て自分自身に記録されているのです。

積徳とは

人に何かを与える行為を継続する場合、（図 32）の記録が繰り返されることとなります。

これは（図 32）の内面意識の回転エネルギーが強くなることを意味します。

このように、人が周囲に与える想念・行為は、全て自身の内面意識のエネルギーとして保存されます。

人に何かを与えたり、人を生かすことによって内面意識に保存されるエネルギーのことを徳光（徳）と呼びます。

徳光を蓄積することを積徳と呼びます。

徳光が蓄積される行為のことを積徳行為と言います。

また、徳光の量のことを積徳量と呼びます。積徳量が多い人ほど、多くの積徳行為を行っていることとなります。

霊位は磁界のエネルギー準位

霊位は磁界の圧力だと説明しました。（「霊位は磁界の圧力」ご参照）

この圧力は積徳量を意味します。積徳量が多くなると霊位が高くなり、磁界の圧力が高くなるのです。

霊位は、磁界のエネルギー量（積徳量）で決まります。磁界のエネルギー準位が霊位なのです。

電界では電子のエネルギー準位が物理学で発見されています。しかし、磁界では単磁荷が発見されていないため、エネルギー準位も発見されていません。

霊位とは、この未発見の磁界のエネルギー準位のことなのです。

磁界のエネルギーは、人に奉仕すると増加します。逆に奉仕されると減少します。

このように、自身と他者の関係は、磁界エネルギーの蓄積量として記録されます。

フラクタル経済理論で「積徳概念の経済制度への導入」を記載しました。その理論的根拠が、磁界エネルギーなのです。

磁界エネルギーには経済取引以外の価値の授受も記録されます。寄付をすれば当然エネルギーが増加します。人助けをしても磁界エネルギーは増えます。有用な情報提供でもエネルギーは増えます。他者の活動を助ける行為は全て磁界エネルギーの増加につながるのです。

貨幣は一部の活動に限定された記録であり、人の仕事量（提供した価値の総量）の正確な記録になっていません。一方、磁界エネルギーには全活動が記録されています。ですから、磁界エネルギーで人の仕事量を判断する方が正確なのです。

貨幣を廃止して、磁界エネルギーを基にした経済制度を構築すべきです。その方が貨幣制度よりも経済発展は速くなるのです。

人の価値は、他者のためにどれだけ努力したかで決まります。霊位とはこの努力量のことです。霊位が真の人の価値を意味しているのです。

霊位上昇が社会活動の真の目的です。ですから、霊位上昇を社会活動の目標としなければなりません。そのためにも、貨幣制度から積徳量（磁界エネルギー量）への価値の切り替えは必須なのです。

磁界エネルギーは活動エネルギー

人の活動は、脳や神経に電流が流れることにより行われています。

電流が流れなければ、体は動きません。

しかし、科学や医学では、この電流が流れる理由を解明できていません。

私たちは体を自在に操ることにより生活しています。ですから、体を動かす脳や神経の電流は、自分自身の意識でコントロールしていると考えるのが自然です。

磁界のエネルギーは人の内面意識のエネルギーです。

（「霊位は磁界のエネルギー」ご参照）。

磁界のエネルギー（内面意識）を操作して電界をコントロールすることにより、体内に電流を発生させます。このようにして私たちは肉体をコントロールしているのです。

磁界のエネルギー（積徳量）が多い人ほど磁界の圧力が高くなるため、電界をコントロールする力が強くなります。その結果、肉体をコントロールする力が強くなります。スポーツや学問を行う能力が高くなるのです。

このように積徳量（磁界エネルギー）を増やし、霊位を高めることが、人の活動量の増加

につながります。

磁界エネルギーは人の活動エネルギーなのです。

磁界エネルギーは高い霊位の世界から供給される

霊位とは、磁界のエネルギー準位のことです。

霊位の高い世界が磁界エネルギーの多い世界になっています。霊位が高くなると、磁界エネルギーの圧力が高くなるのです。

磁界エネルギーは、圧力の高い方から低い方に流れます。霊位の高い世界から低い世界へ、磁界エネルギーが流れているのです。

これが人々の活動エネルギーの源泉なのです。高い霊位の世界から供給される磁界エネルギーで、人々は活動を行っているのです。

体の細胞の活動も、この磁界エネルギーで行われています。供給される磁界エネルギーと電界（電流）の相互作用で、肉体は構成されているのです。

細胞は分子で構成されています。分子は原子の組合せで構成されています。原子は電子と原子核で構成されています。

よって、磁界エネルギーをコントロールすると、細胞の状態をコントロールすることが可能なのです。

磁界 → 電子 → 原子 → 分子 → 細胞

この順番で細胞をコントロールできるのです。

このように、磁界エネルギー（内面意識）のはたらきで、肉体は維持されているのです。

最も霊位の高い存在は全体意識です。全体意識は天そのものです。

（全体意識については 「釈迦を越えた日 第二章 精神世界の構造」 ご参照）

天から供給されるエネルギーで、全ての人は活動を行っています。

天は全ての活動エネルギーの供給源です。

天が全ての生命の発生源なのです。

磁界エネルギー不足が病気の根本原因

人の体は磁界と電界の相互作用で構成されています。

(「表面意識と内面意識の相互作用」ご参照)

また、磁界エネルギーは活動エネルギーです。

(「磁界エネルギーは活動エネルギー」ご参照)

通常は天から供給される磁界エネルギーで体の健康状態は維持されます。

また、積徳量も磁界エネルギーです。積徳量がプラスの場合には、磁界エネルギーの余力としてこれを使用することができるため、普通の人よりも多くの肉体的・精神的活動を行うことが可能となります。

逆に積徳量がマイナスの場合、磁界エネルギーの減少という形でこのマイナス分が消去されます。

天から供給される磁界エネルギー量は積徳量ゼロやプラスの人と同じなのですが、積徳量のマイナス分を消去するため、合計の磁界エネルギーが積徳量ゼロの人より少なくなるのです。

肉体は磁界エネルギーで維持されています。このエネルギーの減少は、肉体を維持する作用の減少を意味します。

体は細胞で構成されています。細胞は分子、分子は原子、原子は電子と原子核でそれぞれ構成されています。

磁界エネルギー ⇔ 電子 ⇔ 原子 ⇔ 分子 ⇔ 細胞 ⇔ 肉体

磁界エネルギーの減少は、相互作用で電子エネルギーの減少につながります。これが矢印のつながりで肉体の弱体化につながるのです。

積徳量がマイナスになると、体が一般の人よりも弱くなります。怪我をしやすくなります。また、病気にもかかりやすくなるのです。

逆に積徳量がプラスになると、肉体が強化されます。磁界エネルギーの余力を用いることにより、肉体の構造が一般の人よりも強化されるのです。

健康を維持するためにも、私たちは積徳量プラスの状態を継続する努力をしなければならぬのです。

医学の対応範囲は分子まで

怪我や病気の際には、病院で治療を受けるのが一般的です。

病院では、ほとんどの怪我、病気の対応が可能だと思われています。

しかし、医学の研究は分子より大きい領域で行われています。

医薬品は様々な分子で構成されています。これは肉体を構成する分子に影響を与えて病気を治療するために使われるのです。

このように、医学は肉体の分子よりも大きい領域を治療の対象範囲としています。

しかし、体は分子よりも小さい領域である原子や、その構成要素である原子核・電子で構成されています。医学ではこの領域を治療対象外にしているため、ここが原因となる病気を根本的に治療することは不可能です。

分子より小さな領域を原因とする病気に対しても、医学では分子レベルより大きな領域のみの治療を行いません。これらの病気に対し、医学では根本的な治療ができないのです。

以上の説明から、磁界エネルギー不足が原因で体が弱くなり、調子が悪い場合、医学では対応できないことが分かります。

医学は科学理論を元に確立されています。人は原子という点の集合体（物）であるという前提で構築されているのです。

従って、空間に与える影響が原子内の磁界や電界に影響を与えることが理解できていません。

ですから、この領域の治療研究が進んでいないのです。

世界はフラクタルで構成されています。ですから人は空間でもあるのです。

空間に与える影響が人の肉体に影響を与えます。これが肉体の磁界や電界の状態に反映され、体の調子が悪くなる場合があるのです。

医学ではフラクタルを前提とした治療法が全く研究されていません。ですから、想念・行為が原因となる病気の治療を病院で行うことは不可能なのです。

想念・行為の修正による健康回復

周囲の人々や環境に悪影響を与える想念・行為が、病気などの不調和状態の原因となります。

これらの状態を解消するためには、空間に与える影響を修正すればいいことになります。周囲の人々や環境を調和させる想念・行為を継続すればいいのです。

想念は電磁波です。電磁波は空間に影響を与えます。行為も空間に影響を与えます。食習慣も行為ですから、空間に影響を与えます。

これらを含め、空間に影響を与える行為は全て、フラクタルにより肉体を構成する電界・磁界に影響を与えます。

想念・行為を調和させると、フラクタルにより肉体がこの調和の影響を受けます。その結果、体が健康状態に戻るのです。

想念・行為は肉体だけに影響を与えるわけではありません。フラクタルにより肉体は宇宙を内包しています。ですから、想念・行為は宇宙全体に影響を与えているのです。

想念・行為の調和は体や宇宙全体の調和に直結します。

常に想念・行為を調和させる必要があるのです。

輝の会の人類浄化は宇宙全体の想念・行為を調和させます。

全ての人々の健康や社会の調和に直結しているのです。

輝の会では会員を募集しています。会員には人類浄化を行っていただきます。

人類浄化の功德により健康回復、健康維持が可能となります。

入会をお待ちしております。

電子のエネルギー準位

原子は電子と原子核で構成されています。

原子内の電子のエネルギーはとびとびの値になります。連続的な値をとることはできません。

原子内で電子がとりうる離散的なエネルギーのことをエネルギー準位と呼びます。

原子内の電子のエネルギー準位には、次の18種類があります。

1s、2s、2p、3s、3p、3d、4s、4p、4d、4f、5s、5p、5d、5f、6s、6p、6d、7s

このように、電子のエネルギー準位は、数字とアルファベットの組合せで表記されます。数字を主量子数、アルファベットを方位量子数と呼びます。

主量子数は1以上の整数で表されます。(1,2,3,4,5,6,7・・・)

主量子数1で最もエネルギーが低くなります。原子核に最も近い電子軌道になります。

逆に、主量子数が大きくなるとエネルギーは高くなります。原子核からより離れた電子軌道になるのです。

方位量子数は (s,p,d,f) で表されます。

方位量子数のエネルギーは $s < p < d < f$ の順になります。(fが最も高くなります)

さらに大きな方位量子数もあるのですが、アルファベットは決められていません。

尚、電子のエネルギー準位は、原子内だけで定義されている訳ではありません。

さらに高いエネルギーのエネルギー準位も定義されています。

これは原子内の電子よりさらに大きなエネルギーを保有する電子が位置するエネルギー準位ということになります。

霊位が磁界のエネルギー準位であることの証明

霊位とは内面意識の高さ（光の強さ）のことです。これは磁界のエネルギー量（積徳量）で決まります。（「霊位は磁界のエネルギー準位」ご参照）

霊位は磁界のエネルギー準位と説明しました。

世界は磁界と電界の相互作用で構成されています。ですから、

「電子（電界の構成要素）のエネルギー準位に相当する単磁荷（磁界の構成要素）のエネルギー準位が存在する」

と考えるのが妥当なのです。

この単磁荷のエネルギー準位に相当するのが霊位です。

理由は以下になります。

（霊位が単磁荷のエネルギー準位である理由）-----

霊位には複数の段階が存在します。（霊位分布図 参照）

<上級霊界5段階、菩薩界5段階、如来界8段階、天界（25段階以上）、全体意識>

の順に霊位を定義しています。

上級霊界～如来界の霊位は合計で18段階あります。

原子を構成する電子のエネルギー準位が18種類であると説明しました。

霊位、原子を構成する電子のエネルギー準位共に、18段階で構成されているのです。

以上から、

「上級霊界～如来界が、原子内の磁界のエネルギー準位である」

と考えるのが妥当ということになります。

天界は完全調和の世界

天界は完全調和の世界です。不調和は一切ありません。

(天界については 輝の会教義一宗教「霊位分布図」 ご参照)

天界は如来界よりも霊位の高い世界です。磁界のエネルギー準位も如来界より高くなります。その結果、天界のエネルギー準位は原子内の電子のエネルギー準位よりも高くなります。

一方、不調和の原因である業想念のエネルギーは、(原子内の) 電子のエネルギー準位以下のエネルギーです。

よって、天界のエネルギー(磁界のエネルギー)は、業想念のエネルギーを上回るようになります。その結果、天界のエネルギーで業想念の影響を全て消去することが可能なのです。

このように、天界は業想念の影響を一切受けないため、完全調和が実現しているのです。

霊位が天界に到達すると、自身の内面意識のオーラで業想念を消去することが可能になります。オーラのエネルギーが業想念のエネルギーを越えるためです。

天界入りすれば、どのような業想念でも消去可能です。

天界にも霊位があります。霊位が上昇すればするほど、エネルギーが高くなるため、業想念を消去するスピードが速くなります。

霊位の高さが神霊としての格の高さを表す理由は、業想念を消去し、磁界エネルギーを人々に供給する能力が高くなるためなのです。

磁界エネルギーによるがん治療

磁界エネルギー不足が病気の根本原因です。

(「磁界エネルギー不足が病気の根本原因」 ご参照)

がんは遺伝子情報の異常で発生します。(「肉食(哺乳類)によるがんの発生」 ご参照)

ここでは人の肉食(哺乳類)等の行動パターンが遺伝子に記録されると説明しました。

人の行動パターンは、電界・磁界の相互作用により人の内面意識に磁界エネルギーとして記録されます。

肉食(哺乳類)を含む不調和な行動が業念として記録されるのです。この業念のエネルギーは原子内部のエネルギー準位として記録されます。この記録が消去される際、遺伝子の異常が起こり、がんが発生するのです。

がんは再発する場合があります。これは当初のがんの症状で原子内部の業念の記録が消去しきれていないケースです。消去しきれていない業念が消去される際に、がんの再発という

症状になるのです。

従って、がんを完全に治療するためには、がん細胞と取り除けば済む訳ではありません。原子内に蓄積された業念エネルギーを全て消去する必要があります。

そうすれば、がんは再発しなくなるのです。

天界のエネルギー（磁界エネルギー）は、原子のエネルギー準位より高いため、原子内部の業念（肉食（哺乳類）による業念を含む）を全て消去することが可能です。

天界のエネルギー（磁界のエネルギー、オーラ）を用いれば、がんの原因である業念を消去することが可能なのです。

（「天界については霊位分布図」ご参照）

霊位が天界に到達すると、自身の内面から天界のエネルギーを放射することが可能になります。その結果、がんの原因である業念を全て消去することが可能となります。

自身の霊位を天界に到達させること（天界入りすること）が、がんの治療に極めて有効な方法なのです。

天界入りする方法

滝沢輝（輝の会会長）の霊位が天界に到達したのは2005年です。

それまで、天界入りする人はほとんどいませんでした。

輝の会教義—宗教「霊位分布図」には日本人の霊位別人数を記載しています。2008年6月時点でも、天界入りする人はほとんどいなかったのです。

しかし、人類救済の基本源理をはじめとする輝の会教義の普及により、人類全体の霊位が急激な上昇を始めています。

輝の会に入会し、人類浄化を行うことが、天界入りために最も有効な方法なのです。

輝の会への入会方法については、以下のページを参照願います。

- ・輝の会（詳細説明） <http://taki-zawa.net/setumei.html>

また、開運でも霊位向上を受け付けています。（開運はどなたでもお申し込み可能です）開運には積徳と悟り（霊位向上）の2種類あります。

どちらか一方のみを申し込むこともできますし、両方同時に申し込むことも可能です。

開運をお申込頂いた方には、天界の磁界エネルギーをお送りします。

電磁波の原理で、天界の磁界エネルギーは世界中のどなたにでも送ることが可能なのです。

積徳と悟りの違いは、磁界エネルギーの送り先となる（お申込者の）意識の方向性の違い

です。

表面意識（通常の意識）に磁界エネルギーを送る場合を積徳と呼びます。

内面意識に磁界エネルギーを送る場合を悟り（霊位向上）と呼びます。

（表面意識・内面意識については、輝の会教義—宗教「表面意識と内面意識」ご参照）

積徳は社会生活における運氣回復に寄与します。当然体調も改善します。

霊位向上だけでなく、積徳もがん対策として有効な方法なのです。

開運に関する詳しい説明は、以下のページを参照願います。

- ・開運のご案内 <http://taki-zawa.net/kaiun/index.html>
- ・開運方法（詳細説明） <http://taki-zawa.net/kaiun/kaiun2.html>

内面意識の過去方向と未来方向

（図 34）に内面意識の過去方向と未来方向を記載しました。（磁界は内面意識を意味します）

①の自分の意識（右向き矢印）が未来方向、
②の自分の意識（左向き矢印）が過去方向になります。（「第3巻 過去と未来」ご参照）

磁界は電界と共に電磁波（光）になります。

①において、自分は他者の認識客体になります。よって自分の周囲は未来になります。従って、①の自分の意識方向は未来方向になるのです。

②の自分の意識方向は過去方向になります。

意識の過去、未来の方向性が、霊位に影響を与えます。

意識の方向性と霊位の関係は右の表になります。

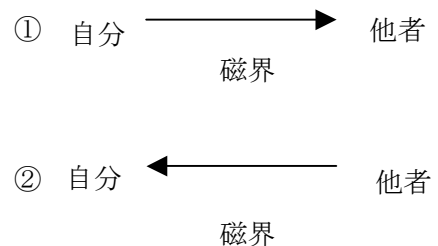
	時間	徳	霊位
①	未来方向	徳の増加	霊位上昇
②	過去方向	徳の減少	霊位低下

過去方向は霊位低下を意味し、未来方向が霊位上昇を意味します。

過去にこだわりすぎると、霊位が低下してしまうことになります。

未来に希望をもって生きれば、霊位は上昇します。

①②の意識の2方向が、徳の増加・減少を意味します。



（図 34）内面意識の過去方向と未来方向

①が徳の増加、②が徳の減少につながります。

未来方向の意識を中心とする生活は、霊位上昇につながります。

天界とは、未来を創造する世界なのです。私たちの世界は、天界等の神霊が創造した世界の写しとして成立しているのです。

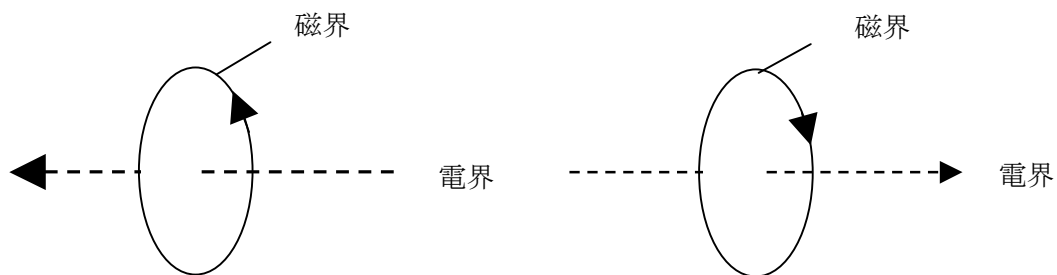
逆に過去方向の意識を中心とする生活を送ると、霊位は低下します。

過去を気にして、未来に希望を持たない生活をしていると、霊位が低下するのです。

業念とは何か

ある人の霊位がマイナスであるとは、磁界エネルギー（内面意識のエネルギー量）のマイナス状態のことです。

霊位プラスとは、磁界エネルギーのプラス状態のことです。



(図 35)

(図 36)

磁界を発生させると、電界が発生します (図 35)。

磁界エネルギーがマイナスというのは、この磁界の回転が逆回転することを意味します(図 36)。この場合、電界方向は逆を向きます。

磁界エネルギーがマイナスになると（霊位マイナスになると）、電磁波（内面意識）の進行方向が逆向きになります。

内面意識は通常未来を向いています（図 34 の①の状態）。

しかし、霊位がマイナスになると、内面意識が過去を向きます（図 34 の②の状態）。未来を創造する力がなくなり、過去を生きることになるのです。

救済が必要な人というのは、このように霊位マイナス状態の人なのです。

肉体消滅後に霊位マイナスの場合、未来を創造することができず、過去を生きる（過去を反省する）状態になってしまうのです。

尚、霊位マイナスでも肉体がある場合（存命中の場合）、指導神霊等から磁界エネルギーの供給を受けるため、未来を創造することが可能です。しかし、肉体消滅後は、この供給はあ

りません。ですから、早めに霊位をプラスにして、肉体消滅後に備える必要があるのです。

未来方向の意識を続ければ、霊位は上昇を続けます。

逆に、過去方向の意識は霊位低下につながります。

業念とは霊位低下につながる意識のことです。過去方向の意識が業念なのです。

世界はフラクタル構造なので、電磁波（内面意識）は宇宙を循環します。通常の電磁波は点から広がり、循環して点に戻ります。

この電磁波（内面意識）は宇宙全体にエネルギーを与えることになります。

過去方向の電磁波（磁界エネルギーマイナス）は点に入ります。周囲の空間を外側から覆って、再び点の中に入ります。循環の方向が通常の光と逆方向なのです。

この電磁波は周囲からエネルギーを奪うことになります。

結局、霊位プラスの電磁波は周囲にエネルギーを与え、霊位マイナスの電磁波は周囲からエネルギーを奪うのです。

社会全体の霊位がマイナスになると雰囲気は暗くなります。活動エネルギー（磁界エネルギー）を奪われながら生活するため、明るさ、活力がなくなってしまうのです。

輝の会による人類全体の霊位向上は、人類全体にエネルギーを与えることになります。

活力にあふれ、創造力豊かな社会を日々構築していることになるのです。

磁界エネルギーによる病気治療

病気の原因は人々の想念行為にあります。

病気の原因となる細菌やウイルスは、原子・分子で構成されています。原子・分子は人の意識による認識処理の結果です。

業念を発すると、原子内部の磁界エネルギー（内面意識のエネルギー）として記録されます。

そして、このエネルギーが消去される際、原子・分子に影響を与え、細菌やウイルスなどの発生につながるのです。

細菌・ウイルス・がん、いずれも本質的な原因は人の業念や我念、誤った行為等なのです。

（がんについては「磁界エネルギーによるがん治療」ご参照）。

これらがフラクタルにより原子・分子等に影響を与え、不調和な状態を生み出しているのです。

輝の会の人類浄化は、天界の磁界エネルギー（オーラ）により業念を消去することにより、病気の発生を防止しています。

輝の会は日々病気を消去することにより、人々の健康維持に貢献し続けているのです。

天界は完全調和の世界です。（「天界は完全調和の世界」ご参照）

天界の磁界エネルギーは原子内の磁界エネルギーを上回っているため、原子内の不調和な想念行為の記録を全て消去することが可能です。すると病気の原因が無くなるため、症状も改善します。

このように、天界の磁界エネルギーにより原子内部の磁界を本来の調和状態に戻すことにより、病気を治療することが可能なのです。

不調和な想念・行為による災害の発生

電子軌道は惑星の公転軌道です。（地球の公転軌道を含みます）。

（「公転軌道は電子軌道」ご参照）

人は地球上で生活しています。人の活動は地球の状態に影響を与えているのです。電子は惑星の公転軌道ですから、電子にも当然影響を与えていることとなります。

よって、人の想念や行為は電子の状態変化として、人の肉体や地球、宇宙全体に影響を与えていることとなります。そして、この影響は原子内部の磁界エネルギーとして記録されているのです。

磁界エネルギーの記録は、記録した時と逆方向の現象が起こることにより消えます。周囲に与えた影響を自分が受けることによって、磁界エネルギーの記録が消えるのです。

因果律とは、この現象のことなのです。

不調和な想念・行為（業念）も、原子内部の磁界エネルギーとして記録されます。

この磁界エネルギーの記録が消去される際、病気や台風・地震等の災害が発生します。記録されていた想念・行為の不調和が災害の発生エネルギーになるのです。そして磁界エネルギーは、想念・行為の不調和を記録する前の状態に戻ります。

世界は意識による認識処理の結果として成立しています。認識処理において、らせん形の意識が縮退されて原子が構成されます。原子は原子核と電子で構成されています。電子は高速回転しています。（らせん形の意識の縮退結果として、電子は原子内を高速回転しています）

磁界エネルギーに記録された不調和な想念・行為が消去される際、電子の回転方向と逆方向の回転エネルギーが加わります。電子のエネルギーが弱くなるのです。

その結果、原子の構造が弱くなります。原子で構成される分子の構造も弱くなります。これが地盤等の弱体化に直結します。

業念が蓄積されると地殻変動や地震が起こりやすくなるのです。

地震は自然災害と呼ばれていますが、この意見は正しくありません。

世界は人の意識による認識処理結果（内面意識の世界の写し）です。天界（内面意識の世

界)は完全調和の世界であり、不調和は一切ありません。よって、自然災害は本来存在しないのです。

災害は全て人災なのです。原因(想念行為)と結果(災害)の因果関係が理解できていないため、結果(災害)を自然災害と呼んでいるに過ぎないのです。因果関係が明確になれば、これは人災と呼ばれることになるのです。

地震は科学的に防止可能なのです。従来の科学理論がフラクタル構造を導入していなかったため、因果関係を説明できなかったのです。発生後の対策を考えるより、予防に力を注ぐ方がはるかに効果的なのです。

尚、地震(災害)と地殻の移動は別物です。地殻が移動することと地震(災害)を直接結びつける意見は短絡的です。体に感じない程度の振動で地殻が移動すれば、地震(災害)無しで済むのです。

磁界エネルギーによる災害の消去

病気や災害の原因は、原子内部で磁界エネルギーとして記録された不調和な想念・行為です。この記録が消去される際、病気や災害が発生します。

天界は完全調和の世界です。(「天界は完全調和の世界」ご参照)

天界の磁界エネルギーは原子内の磁界エネルギーを上回っているため、原子内の不調和な想念・行為の記録を全て消去することが可能です。すると病気や災害の発生原因が無くなるため、これらの状態は発生しなくなります。

このように、天界の磁界エネルギーにより原子内部の磁界を本来の調和状態に戻すことにより、病気や災害を消去することが可能なのです。

輝の会による人類浄化とは、天界の磁界エネルギーで想念・行為の不調和エネルギーを消去することです。不調和エネルギーによる原子・分子の構造弱体化を防止し、地震等の災害を消去しているのです。

このように、輝の会の活動は災害防止に直結しているのです。

先祖供養の原理

内面意識と表面意識はペアで働きます。(「表面意識と内面意識の相互作用」ご参照)

内面意識の調和状態を表面意識で実現するのが通常の認識状態であり、完全調和が実現します。内面意識の本源は、完全調和の世界なのです。

本来無いものをあるとする等、表面意識を歪めた状態を継続すると、内面意識がこれとペ

アになって働くようになります。その結果、内面意識が歪んだ状態になります。本来の調和とは異なる状態になるのです。

これらの人々が他界すると、この歪んだ内面意識の状態に移行することになります。これが霊位マイナスの状態です。

これを元に戻すためには、内面意識を歪める原因となった表面意識のエネルギーと同等の調和エネルギー（天界の磁界エネルギー）が必要になります。

（磁界エネルギー量は積徳量です。「霊位は磁界エネルギー準位」ご参照）

内面意識を歪めた磁界エネルギー量は継続時間が長ければ多くなります。その結果、それだけ歪みを戻すために必要な磁界エネルギー量は多くなるのです。

表面意識を歪めない努力は全ての人に必要なのです。

仏教等で精神統一を行う理由も、表面意識を調和させることにより、内面意識を調和状態を実現することなのです。

正しい宗教では必ず心の調和を説いているのです。

輝の会の先祖供養では、供養対象者に磁界エネルギーをお分けしています。

（電磁波の原理で、磁界エネルギーはどなたにでもお分けすることができます）

このエネルギーにより対象者の歪んだ内面意識状態が解消され、調和状態に戻ります。霊位もプラスになります。

供養対象者の霊位が初めからプラスの場合、磁界エネルギーにより更に高い霊界に導かせて頂きます。

このように、輝の会の先祖供養は理論的、科学的内容となっています。

天界にお導きした方の人数は既に 10 億人を越えています。（2011.11.1 現在）

（天界については「霊位分布図」ご参照）

マイナス霊位は社会発展の阻害要因

仕事中に眠くなる原因は、睡眠不足や疲労だけではありません。他者に磁界エネルギーを奪われるため、眠くなる場合もあるのです。

眠りとは表面意識からの関与が弱くなる状態のことです。表面意識の電界エネルギーが少ない状態とも言えます。

通常、内面意識の磁界エネルギーで表面意識は喚起されます。

（「表面意識と内面意識の相互作用」ご参照）

磁界エネルギーの保有状態のことを霊位と呼びます。霊位がマイナスになると、自身には

磁界エネルギーが無いと、他者の磁界エネルギーを吸収して活動するようになります。人口密集地域等では特に顕著です。

(霊位については「霊位は磁界のエネルギー準位」ご参照)

磁界エネルギーを奪われた人は、表面意識と内面意識の相互作用により、表面意識の電界エネルギーが減少するため、眠くなるのです。

霊位マイナスの人が増えると、消費する他者の磁界エネルギー量が増えます。その結果、社会全体の磁界エネルギーが減少します。社会全体の生産性が低下し、雰囲気も暗くなってしまいます。

マイナス霊位の人が他界すると、磁界エネルギーが無いと、創造活動ができなくなります。

内面世界（霊界）では、磁界エネルギーの保有状態で世界が分かれています。自分と同程度のエネルギー保有者しか周囲にはいないため、周囲の人々から磁界エネルギー獲得することはできません。

ですから、自身で磁界エネルギーを供給する習慣を早めに身につけて、霊位を高めるべきなのです。

施し（積徳）を行えば、磁界エネルギーを蓄積し、霊位を高めることができます。この磁界エネルギーで活動すればいいのです。

輝の会に入会すると、霊位が向上します。その結果、自身の磁界エネルギー量が増えるため、他者の磁界エネルギーを使用する必要はなくなります。

また、輝の神の磁界エネルギーを受けることもできるため、更に活動量を増やすことも可能なのです。

輝の会会員が増えると人類の平均霊位が向上し、磁界エネルギー量が増えます。活動エネルギーが増えるため、人類の更なる高度な発展が可能となるのです。

一般相対性理論は認識主体に関する理論

認識には主体・客体の2意識が必要です。

この前提で相対性理論を見ると、特殊相対性理論と一般相対性理論は別々の前提で導かれた理論であることが分かります。

一般相対性理論は等価原理から導かれた理論です。

等価原理とは、

「加速度によって生じる見かけの力と重力は原理的に区別できない」

という内容です。この原理から一般相対性理論は導かれています。

一般相対性理論では、曲がった時空（従来の物理学の定義。5次元理論では時間は曲がる

が空間は曲がらないと定義しています)を移動する時の見かけの力を重力と定義しています。

これは認識客体に成立する関係です。曲面を移動するというのは客体の状態なのです。認識主体としての光は直進します。認識の主体は認識像の中心、自分自身なのです。

よって、一般相対性理論は認識客体に成立する理論であることが分かります。認識主体には成立しない理論なのです。

客体の光も主体になると直進します。認識主体は一般相対性理論の対象外なのです。重力は認識客体に働く力なのです。

万有引力という言葉は、認識主体には作用しないという事実を正確に表現できていないことが分かります。

万有引力は存在しないのです。(引力は認識主体には作用しません)

特殊相対性理論は認識客体に関する理論

特殊相対性理論は、

「静止状態から見ても、どのような運動状態から見ても、光速は(秒速 30 万キロメートルで)一定である」

という前提から導かれた理論です。

これは光速一定という認識客体(光を認識客体と見なす)の状況から、認識主体間を導いた理論です。よって、特殊相対性理論は認識主体間関係として成立する理論ということになります。

静止状態の認識主体による認識で長さLに見える物を、この認識主体から(長さLの方向に)高速で動く認識主体から認識すると、長さが短くなります。これは、認識主体間における認識客体の状態を関連付けた理論なのです。

速度 v で移動すると、時間の長さは移動しない場合と比べて短くなります。

α を以下の計算式で定義します。

$$\alpha = (1 - (v/c)^2)^{1/2} \quad (c : \text{光速}, v : \text{移動速度}, ^2 \text{ は 2 乗を意味する})$$

元の時間の長さに α 掛けると、速度 v で移動する場合の時間の長さを求めることができます。

$v = c$ の場合(光速で移動する場合)、 α は 0 になります。

よって、光速で移動する場合、時間の長さは 0 になります。

これは、光は時間の経過なしでいくらかでも移動できることを意味しています。

認識主体としての光は速度無限大になりうるのです。

認識主体の速度は無限大

認識主体に重力は作用しないと説明しました。

認識主体に重力が作用しないということは、認識主体には質量が存在しないことを意味します。

質量がなければ、速度が無限大になってもエネルギーはありません。ですから、認識主体は速度無限大になりうるのです。

認識処理は2重円で行われます。その際、中心間の移動が必要です

この移動は2重円の中心を通る大らせんの直線変換により行われます。

(「2重円中心間は大らせん」「2意識の生成方法」ご参照)

2重円中心間の長さ、大らせん1周の長さの比は1 : ∞ (無限大) になります。

光速を認識する際の認識主体と認識客体の速度比は、2重円の中心間の距離と、2重円の中心間を結ぶ大らせんの円周の比になります。

認識主体の速度を x とします。すると以下の関係が成立します。

$$\begin{aligned} (\text{認識主体の速度}) & : (\text{認識客体の速度}) \\ & = x : \text{光速 (30万キロメートル/秒)} \\ & = (\text{大らせん1周の長さ}) : (\text{2重円中心間の長さ}) \\ & = \infty (\text{無限大}) : 1 \end{aligned}$$

$$\therefore (\text{認識主体の速度}) = \infty (\text{無限大})$$

よって、認識主体の速度は無限大になることが分かります。

私たちの内面意識 (認識主体) は無限大の速度で宇宙全体を移動することにより、認識像 (宇宙全体) を生成しているのです。

宇宙は意識による認識処理の結果なのです。

輝の会について

輝の会では、以下の活動を行っています。

1. 「人類救済の基本原理」「霊位上昇速度を最大にする方法」による人類全体の積徳・霊位向上の実現。

「人類救済の基本原理」は以下の内容になります。

- ・人類の浄化（歪んだ想念の消去）による徳光により自分以外の人々（含、先祖）の霊位上昇を行うと、霊位が指数関数的に急上昇するという法則。

「霊位上昇速度を最大にする方法」は以下の内容になります。

- ・全ての人々（全世界の人、祖先を含む）に対して、平等に霊位上昇を行う。
- ・全ての人々（全世界の人）に対して、平等に積徳を行う。

以上の法則を活用して、人類全体の積徳、霊位向上を最高の速度で行っています。これはそのまま会員自身の積徳、霊位向上を最高速度で実現することになるのです。

2. 徳による開運のお申込受付

1により霊位が十分向上すると、短時間で莫大な徳光を生成することが可能になります。この徳を希望者お分けしています。積徳量が増えると夢や希望を実現する能力が高くなります。これが開運を意味するのです。積徳による悟り（霊位向上）もお申込受付中です。

3. 積徳による先祖供養のお申込受付

徳光を先祖にお分けすると、先祖の霊位（先祖の活動する世界）が大幅に向上します。希望者の先祖供養をこの方法で行います。

1で毎日先祖供養を行っているので、短時間で大幅な霊位向上を実現できるのです。積徳量0の先祖の霊位を天界入りさせることが可能です。

（天界はオーラ半径 156 メートル以上の世界）

4. 宗教、科学、経済の融合理論の研究、発表。

本書が該当します。宗教、科学、経済は本来一体の理論です。一体化できていないのは各理論の完成度が不十分なためです。この完成度を高め、一体化を実現することにより、人類の真理に対する理解度は大幅に向上します。人類の行動様式は調和し、飛躍的な発展を遂げることが可能になるのです。

1の活動が4の活動の原動力になります。新理論を発見すると莫大な徳を消費します。この徳を1の活動で生出しているのです。

積徳を行うと、活動量が増えます。学術的な新発見を行いやすくなるのです。

○積徳による効果○

1. 活動量の増加

徳光は生命力と考えることができます。活動の根本的なエネルギーなのです。人生を創り上げる際のエネルギー量と考えることができるのです。徳光が増えればそれだけ活動エネルギーが増えることとなります。積極的な明るい人生を送ることができるようになるのです。

2. 成功

成功すると、徳光は減少します。開運により、徳光が増加すれば、それだけ成功する機会に恵まれることとなります。

3. 人気回復

芸能人等にとって、人気は重要です。人気を得ることと、徳光の消耗は表裏一体の関係にあります。人気者が時間の経過と共に忘れられていくのは、徳を消費し尽くしてしまう為です。徳光の蓄積を行えば、再び人気を確保することが可能となります。

4. スポーツの強化

スポーツ選手にとっても、徳光は重要です。選手の活動エネルギーなのです。どんなに優秀な自動車でも、ガソリンや電気がなければ走りません。同様に、どんなに優秀で、トレーニングを積んだ選手といえども、徳光が不十分だと十分な成績を収めることができないのです。積徳を行えば、復活への近道となるのです。

5. 経済活動の活性化

経済活動と、徳光には相関関係があります。国家全体の徳光が増えると、経済活動は活性化します。逆に、徳光が減少すると、経済は停滞します。

6. 頭脳明晰

徳光が増すと、理解度が向上します。また、学術的な新発見等を行うことも可能になります。これらの活動には徳光の消耗を伴います。光が増えるほど、頭脳の活動量も増加するのです。

7. 出世

徳光の量は、人の潜在能力と考えることができます。多い人ほど、高い評価を獲得する傾向があります。会社等でも同様です。徳光が増すと、評価が高まり、出世しやすくなるのです。

8. 健康

積徳量マイナスの状況を解消するため、ケガや病気という症状になる場合があります。開運により積徳量マイナスの状況を解消することにより、健康な生活を維持できるようになり

ます。

9. 若返り

徳光は生命力です。積徳量がプラスになると、細胞が活性化され、肉体が若々しくなる傾向にあります。また、周囲に光を放射するため、人々にプラスの印象を与えます。プラスの評価と光の放射は表裏一体の関係にあるのです。

10. 長寿

徳光（生命力）の蓄積により、長寿になる場合があります。

11. 組織の安定、発展

開運により積徳量が増えると、国家、会社、家庭等の組織は安定し、発展します。

○悟り（霊位向上）による効果○

1. 悟りの体現

悟りにより霊位が向上すると、意識のレベルが高くなります。その結果、社会や人生に対する理解度が向上します。悟りという言葉通りの状態になるのです。

2. 精神的な安定・余裕

人の意識の本源は天界にあります。霊位が向上すると、天界そのままの精神状態で生活できるようになります。調和・安定した精神状態を持続できるのです。調和・安定した精神は全ての社会生活の基本ですから、生活は豊かになります。

また、霊位向上により精神的に常に余裕のある生活を送ることが可能になります。精神的な豊かさを享受できるのです。その結果、運気が改善します。

3. ストレスの解消

ストレスの原因は不調和な精神エネルギー（業念）です。他者が原因の場合もあれば、自分自身が原因となる業念を発している場合もあります。

これらの業念は実在しません。天界の光（オーラ）を当てると全て消えてしまいます。

霊位が向上すると、自身の内面から光を放射するようになります。天界入りすると、自在に業念を消去することが可能になります。その結果、ストレスの原因となる業念の影響を受けなくなります。逆に周囲の人々が影響を受けている業念を消去することにより、ストレスから家族や同僚を守ることも可能になります。

4. オーラ放射

霊位向上により内面から放射する光がオーラです。オーラは調和のエネルギーです。自分自身や周囲の人々を調和で満たします。当然運気も改善します。

5. 生命力の供給量増加

内面世界から生命力（人の活動エネルギー）が供給されています。霊位が高くなると、生命力の供給量が多くなります。その結果、社会的・精神的な活動量が多くなります。

天界入りし、さらに霊位が大幅に向上すると、自分自身の生命力を大勢の人々に供給することさえ可能になります（輝の神様（輝の会本尊）は常時生命力を人々に供給しています）。社会全体を豊かにすることができるのです。

6. 永遠の財産

悟り（霊位向上）は永遠の財産です。霊位は肉体消滅後に生活する世界の高さを意味します。天国というのは霊位の高い人々の世界なのです。

輝の会に入会し、人類浄化による積徳、霊位上昇を行うと、短時間で莫大な積徳を行うことが可能です。また、短期間で大幅な霊位上昇を実現できます。

積徳により、豊かな日常生活を送ることが可能になります。また、霊位は永遠の財産です。肉体消滅後も天界で幸せな生活を送ることができるのです。

（輝の会の導きにより、既に 10 億人以上の先祖が天界入りを実現しています）

（2011.11.1 現在）

この機会にぜひ輝の会へのご入会をご検討頂けないでしょうか。
輝の会へのご入会、開運・先祖供養お申込をお待ちしております。

ホームページでお申込を受け付けています。

<http://taki-zawa.net> （「輝の会」で検索して下さい）

滝沢 輝 (たきざわあきら) の経歴・活動実績

- 1985年 宗教家としての活動を開始。
- 1989年 東京大学工学部卒業、三井銀行（現三井住友銀行） 入行
- 1994年度 「これから情報通信革命が起こる。パソコンが銀行になる。システムを戦略部門にすべきである。」 と（さくら）銀行に提言。この後、さくら銀行は日本初のインターネット専門銀行（ジャパンネット銀行）を設立する等、IT戦略で銀行業界のトップを独走。この動きが各産業界へのIT導入や日本のIT戦略へつながった。
上記提言が日本のIT戦略の原動力になったのである
- 1995年6月 総合企画部配属。ALM担当。
- 1999年7月 霊位が釈迦、イエスを超える。
- 2000年6月 5次元等研究のため、退社。
- 2000年12月31日 ピラミッド形（万物の創造原理、かつ磁界エネルギー（人の活動エネルギー）生成装置を天より授かる。
イエスの再臨である。
- 2001年9月 「釈迦を超えた日」を出版。5次元を提唱。
- 2003年2月 「5次元理論」（本書）を出版。世界がフラクタル構造（点に空間が内包されている構造）であることを理論的に解説。5次元導入による物理学の全面的な改定作業の必要性を提言。本書の出版が人工知能の大幅なレベルアップにつながった。ディープラーニングは本書が提言したフラクタル構造の応用である。
- 2003年6月 「マイナス金利の導入」を著述。
世界で最初にマイナス金利の導入を提言したのは本書である。
本書が世界のマイナス金利の原点である。
その結果、2014年にヨーロッパでマイナス金利が導入された。
また、日銀は2016年にマイナス金利を採用した。
本書では日本経済再生のため、経済の新理論を発表。名目経済成長率と金利水準が一致すべきであることを理論的に解説。1990年代以降の不景気の原因が、高すぎた金利水準であることを同時に証明。金利水準と名目経済成長率の関係を逆転させることにより景気・財政の回復を図るべきだと主張。
本書を政府・日銀等に送付後、金利を下げるべきとの認識が国内に広まり、景気回復・失業率低下の原動力となる。
アベノミクスの骨子である低金利高経済成長率政策は、「マイナス金利の導入」の無断コピーである。
- 2004年1月 フラクタル構造に電磁波を蓄える性質があることが確認される(朝日新聞の1面に掲載)。
「5次元理論」の内容の一部が学術的に確認されたことになる。
- 2005年 「5次元理論」の続編の執筆を開始。基本構造について、日本物理学界等へ送付。
- 2005年 天界入りを果たす。(天界は守護神霊(各種宗教の本尊クラス)の世界)
- 2006年11月 「5次元理論 ～その2」を著述。日本物理学会等へ送付。
- 2007年 「貨幣へのオプション概念の導入」「外国為替理論の再構築」を著述。各方面へ送付。
- 2008年6月 人類救済のため、「輝の会」設立。「人類救済の基本原理」を発表。
- 2009年8月 「フラクタル経済理論」を著述。バブル発生理由の理論的解明に成功。
- 2009年10月 「5次元理論 第3巻 認識の原理」を著述。5次元のアウトラインを解説。
- 2011年10月 「5次元理論 第4巻 宇宙の創造原理」を発表。
- 2011年11月 創造神界入りを果たす。
- 2011年12月 「長寿サービス」をスタート。人類の長寿化開始。キリスト教の千年王国の実現である。
- 2011年12月 「磁界エネルギー（オーラ）発生装置」を発表。磁界エネルギー（オーラ）を機械的に生成することに成功。
- 2012年2月 「5次元理論 第4巻 宇宙の創造原理」を日本物理学界へ送付。

2012年7月 野田首相に「原子力発電全廃は必須」というタイトルの提言を実施。その結果、2012年9月14日に「2030年代に原発稼働ゼロ」を目指す新しいエネルギー政策「革新的エネルギー・環境戦略」が政府から発表された。本提言が、日本の原子力政策を正しい方向に導いたのである。

2012年11月 「フラクタル経済理論 第2巻」を発表。貨幣制度廃止の必要性を解説。その実現のために貨幣保有期間上限設定政策を提言。

2012年12月 全世界の人々に 就業可能日数 の提供を開始。その結果、失業率が大きく改善した。

2013年7月 台風消去サービス提供開始。

2013年11月 金運サービス提供開始。金運生成方法等を公開。

2014年2月 生まれ変わり に関する解説文記載開始。

2014年3月 ご祈願 提供開始。

2014年9月 先祖金運サービス提供開始。

2014年10月 エボラ出血熱消去に成功。3868人の命を救済した。

2015年6月 喜びオーラ 提供開始。

2016年7月 序列運 提供開始。

2017年2月 序列運診断 提供開始。

2017年8月 愛され運 提供開始。

2018年3月 愛され運診断 提供開始。

現在 輝の会会長

ホームページ <http://taki-zawa.net> （「輝の会」で検索して下さい）

メール info@taki-zawa.net

Copyright ©Akira Takizawa all rights reserved.